

令和5年度

教育に関する事務の管理及び執行状況の
点検及び評価報告書

中能登町教育委員会

はじめに

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、中止や規模縮小実施等とならざるを得なかった事業も再開していった1年でありました。

この報告書は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき、中能登町教育委員会が令和5年度に実施した事務事業の取り組みについて自らその状況について点検し評価を行い、金沢大学 加藤 隆弘 准教授からご意見をいただき、まとめたものです。

令和8年3月

中能登町教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

教育のビジョン

I 事務の点検評価

1 学校教育

- (1) 確かな学力を育む教育の推進 1
- (2) ふるさと学習の推進 7
- (3) 豊かな人間性や社会性を育む教育活動の充実 8
- (4) スポーツの振興 12
- (5) 安全安心な学校づくり 13
- (6) 特別支援教育の充実 15
- (7) 教育委員会と学校及び関連機関との連携した取り組み 17
- (8) 学校と家庭と地域の連携強化 19
- (9) 中能登らしい学校教育の推進 21

2 学校施設・設備の整備充実

- (1) 学校整備事業 23

3 学校給食

- (1) 学校給食 24

4 文化財

- (1) 文化財保護事業 25
- (2) 文化財管理運営事業 28

5 生涯学習の振興

- (1) 社会教育施設の充実 31
- (2) 生涯学習講座の実践 34
- (3) 公民館活動の充実 36
- (4) 青少年の健全育成 40
- (5) 国際交流事業の推進 42

(6) 図書館の充実	44
------------	----

6 生涯スポーツの振興

(1) ジュニアスポーツクラブの充実	48
(2) スポーツの振興	49
(3) スポーツ施設の整備・充実	51
(4) 指導者の養成と選手の育成	53

※注釈	54
-----	----

II 教育委員の主な活動

1 教育委員会名簿	56
2 教育委員会会議の開催状況	56
3 教育委員の主な活動	59

III 令和5年度決算（教育委員会）の概要

1 目的別内訳	60
2 性質別内訳	61

学識経験者による評価コメント	62
----------------	----

教育のビジョン

中能登町では、平成28年7月に「中能登町教育大綱」を策定しました。

令和2年12月に改訂の「教育大綱」は、第2次中能登町総合計画にある「ふるさとふれあい 心を育む 中能登町」の基本理念とまちづくりを進める5つの将来像、国県等の教育行政の動向、社会情勢等の変化などを勘案した上で、本町の教育の指針として定めるものです。

○中能登町学校教育振興ビジョン

1. 基本理念

ふるさとに愛着と誇りをもち、将来を夢みて未来を切り拓く中能登っ子を育てる

2. 基本方針

- 1) 確かな学力と社会性を身につけ、大好きな自分づくりに励む中能登っ子の育成
- 2) 生命を尊重し、正義感と思いやりの心を持つ人間性豊かな中能登っ子の育成
- 3) 心身ともに健康で、自分らしさを発揮し、たくましい行動の出来る中能登っ子の育成

○中能登町社会教育振興ビジョン

1. 基本理念

霊峰石動山と古墳つらなる眉丈山の麓まほろばの地に抱かれ、ふるさと愛を持ち、健康で心豊かな文化の香り高い町を目指す

2. 基本方針

少子高齢化が進行する中、家庭・学校・地域との連携を強化し、町の歴史や文化を継承しつつ、生涯学習・生涯スポーツなど、心豊かに生涯にわたり学び合える環境づくり、また、人間性豊かな、活力ある社会基盤づくりを推進する。

I 事務の点検評価

1 学校教育 (1) 確かな学力を育む教育の推進

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○保育士と小学校教員との確かな連携を図るため、保小連絡協議会の設置</p> <p>① 保小中連携推進委員会 第1回 6月12日 連携のねらい、年間計画 第2回 12月11日 (取り組みを紙面報告) 第3回 2月21日 連携事業報告、振り返り 連携の方向性の明確化</p> <p>② 保小連絡会 ・第1回(5月・6月) 保育園及び子ども園等の保育士による小学校の授業参観と情報交換 鳥屋小 6月13日 鹿島小 6月16日 鹿西小 5月23日 ・第2回(8月) 小学校教員による保育園及び子ども園訪問と情報交換 鳥屋小 8月1日、8月2日、8月3日 鹿島小 8月8日、8月9日 鹿西小 8月2日、8月7日 ・第3回(2月) 年長児ようこそ集会(新1年生を迎える会)及び最終情報交換 鳥屋小 2月1日、2月19日 鹿島小 2月26日 鹿西小 2月6日、2月20日</p> <p><保小連携研修会> 12月11日 園職員による小学校通級指導教室の授業参観及び通級における具体的な支援内容の研修</p> <p>③ 小中連絡会 2月22日、3月7日 3小学校と中学校で学級編成と最終情報交換、引継ぎ等</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保小中連携推進委員会において、幼児期の「目指す姿」に5領域を加えて改良・共有したことは良かった。 ・コロナ感染症の位置付けが移行され、連携事業の再調整・内容工夫を経て、実施することができた。 ・「架け橋プログラム」実施に向け、アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムを含めた2年間(5歳児から小学1年生)における円滑な接続を意識付けすることができた。 ・通級指導教室に関する研修会では、園職員が実際の通級授業を参観することで、通級の目的や意義について理解を深めることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携事業は、コロナ禍以前の内容にそのまま戻すのではなく、関係する組織間で連携目的を十分に理解し、より効果的となるような取組内容に改善する必要がある。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園・学校職員の働き方改革を意識しながら、連携事業内容を改善し継続したい。 ・今後も共通理解を図りながら、保小中の連携を推進し、つながりのある取り組みとしていきたい。

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○学力向上を目指す校内研修と日常的な取り組みの充実 学力向上ロードマップに基づき、授業研究と学習基盤の確立を推進。小・中学校ともに、年間を通して、校内研修を実施。</p> <p>① 小中授業研究会への参加 ・中能登教育事務所の要請訪問となる他校での授業研究会に参加。(年 20 回程)</p> <p>② 各小学校 ・中能登教育事務所からの要請訪問の全体研修(年 16 回程) ・各教員が年 1 回は研究授業を実施し、授業力向上をめざす。 ・学習規律を定め、各学級で毎月の取り組み確認 ・「話し方名人・聴き方名人」の提示と実施 ・ノート指導とモデル提示 ・帯タイム(基本・活用問題, 条件作文等)の実施と推進</p> <p>③ 中能登中学校 ・「シュクマネ」の実施(宿題マネージメントの略) 週課題を曜日に捉われず、生徒自らが課題の量や内容をマネージメントし、計画を立て実行していく力を育む。 後半は必要に応じて(分析により分かった弱点を補うため)日々の課題を提示するなどして、ハイブリッド型の課題提示も行った。 ・若手教員早期育成プログラム 日常的 O J T※1の充実のため、環境整備や時間の確保に取り組む。職員会議後の短時間、行事の前後など適宜工夫して行った。</p>	<p>【成果】 ・他校で行われる授業研究会への参加を通して、学習指導法や手立ての工夫などを研修し、自己の授業改善に活かすことができた。</p> <p>○小学校 ・授業研究を重ねることで、児童の意欲や考える姿勢が身についてきた。 ・指導案検討→授業研究→授業整理会(課題の明確化)→共通実践の一連の流れを確実に実践することで、学校全体の指導力向上へつながった。 ・学習規律の徹底により、落ち着いた学習環境が整えられた。</p> <p>○中学校 ・「シュクマネ」の取り組みにより、生徒が主体的に学ぶことができた。 ・到達度調査及び県評価問題等において、確実に成果を上げてきている。</p> <p>【課題】 ・宿題が自分で計画的に行えない児童生徒の指導・支援が必要である。</p> <p>【今後の方向性】 ・授業研究に ICT※2活用を取り入れ、学校研究と GIGA スクール構想※3を一体化し、効率的に推進していく。 ・取り組みの検証を踏まえ、修正しながら児童生徒の視点に立った取り組みになるよう全職員で共通理解を図り行う。</p>

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○小学校における外国語活動、外国語科の充実及び中学校における姉妹提携校との相互交流による外国語（英語）教育の拡充</p> <p>① A L T※4（外国語指導助手）の各小中学校への配置（計4名）</p> <p>② 各小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A L Tと担任のチームによる外国語活動及び外国語科の授業実践 ・ 英語専門の教員の配置（鹿島小） ・ 英語検定の実施（希望者：延べ 45名） 受験料の半額を町が助成。 合格者数：延べ 20名 3級 2名 4級 4名 5級 14名 ・ 英検 Jrの実施（12月17日実施） 受験料の全額を町が助成。 6年（SILVER：中級） 正答率80%以上 77% 町3校 84.5% 学校版全国 83.1% 英検 Jr全国 83.6% 5年（BLONZE：初級） 正答率80%以上 80% 町3校 86.3% 学校版全国 86.7% 英検 Jr全国 85.0% <p>③ 中能登中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語検定の実施（10月、1月） 受験料の半額を町が助成。 希望者が受験（受検者数：延べ 358名） 合格者数：延べ 259名 2級 5名 準2級 10名 3級 61名 4級 99名 5級 84名 ・ 姉妹提携校（台湾成功国民中学校）との交流 オンラインで7月に実施。生徒会役員を中心とした約20名の生徒が、学校での取り組みをプレゼンし、質問を相互に行うなどの交流を行った。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ すべての小中学校に A L Tが配置され、生きた英語を学ぶ環境が整っている。 ・ A L Tの常駐により、学校生活の中で日常的に英語に親しむ学習環境が整っており、学ぶ意欲につながっている。 ・ 英語専門の教員を中心とした英語教育の充実が図られ、英語検定を希望する児童が増えており、児童の意欲を高められた。 ・ 小学校5・6年生が英検 Jrに取り組み、初期の英語学習者に必要な「聞く力」の正答率を測定し、「できた喜び」を実感できた。 ・ 英語の授業研究会に小中学校の英語担当者及び A L Tが参加し、小中連携につながる場を持つことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国語活動や外国語以外の授業における A L Tの参加の広がりが必要である。 ・ 中学校で英語検定3級程度以上の英語力を有する生徒の割合が54.8%となり、昨年を上回る結果となった。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A L Tと触れ合う機会を増やすなど、A L Tの活用を充実させた授業展開を工夫する。 ・ 小中連携した英語教育の充実が必要である。 ・ コロナ禍であり、姉妹提携校（台湾成功国民中学校）との直接交流が3年間できていないが、スタイルを工夫して交流を継続させたい。

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○タブレット端末（ICT機器）を活用した授業の充実</p> <p>①GIGAスクール構想の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一台端末（タブレットを全児童生徒に配布） <p>② ICTサポーター 2名（毎月2回各校訪問）</p> <p>教職員による、パソコン、タブレットの活用が図られるよう支援</p> <p>③ 授業等でのタブレット端末の活用</p> <p>タブレット端末を活用した、個別学習及び協働学習の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・端末内のドリル学習を個々に応じた進度・内容で実施 ・授業中に児童生徒それぞれの考えを集約し、電子黒板で全員の意見を可視化して話し合いを実施 ・デジタル教科書を活用した授業の実施 ・タブレット持ち帰り日の設定 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板の導入が計画的に進み、ICTサポーターの訪問支援もあり、児童生徒及び教職員にとって、学習環境が整備されている。 ・タブレット利用により、児童生徒は意欲的に学習に臨み、関心や意欲が高まっている。デジタル教科書は視覚的に理解しやすく、学習効果が大きい。 ・全員の意見を一度で可視化できる機能により、友達の意見を聞きたいと思う児童が以前より増えた。 ・タブレットデー（タブレット持ち帰り日）を多く設定し、家庭学習でのタブレット活用を促進した。 ・機器を実際に活用して校内研修を行うことにより、活用力が高まった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な活用についての情報共有が弱い。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを活用していくためにも、計画的に持ち帰りを進めていく。 ・GIGAスクールサポーター等、ICTによる学習環境を計画的に整備していく。 ・授業におけるタブレット活用の情報交換や幅広く活用できる工夫のための校内研修を充実させる。 ・情報モラルを身に付けさせるため、引き続き、児童生徒への指導の充実を図る。 ・効果的な活用について情報交換を定期的に行う。

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○学力調査の実施と活用</p> <p>① 小学校における学力調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県基礎学力調査及び全国学力調査（4年・6年）の実施（5月） 採点分析して課題を確認後、後期学力向上プランを修正 ・ 県評価問題の実施（12月） 採点分析して課題を確認後、3学期学力向上プランを作成 ・ 町の学力調査の実施（全学年） <p>② 中学校における学力調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国学力調査は4月実施。 ・ QU調査と連動した分析ができる全国標準学力検査を実施 ・ 学力調査の趣旨を捉え、自校での分析を早急に行い、学習計画の見直し、授業改善に学校全体で組織的に取り組んだ。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症対策による学習活動の制限により、学習内容の定着が懸念されたが、学力調査結果の分析を通して、校内研修を実施し、全教職員で共通理解を図り、日々の授業の中で改善策を実践することができた。 ・ 課題に関わる単元等を、全学年の年間指導計画にマークし、授業設計に活かすことで課題改善を図った。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学力調査の分析結果を、今後、どのように活かし実践していくのかということが最も大切なことである。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学力向上に効果の見られた指導を継続し、基礎学力の確実な定着となるよう取り組みプランを作成する。 ・ 学校全体の課題を共通理解し、教科部会の一層の充実を図っていきたい。

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○家庭と連携した学習習慣の確立</p> <p>①各小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級・学年・学校通信の発行 家庭学習の習慣が身に付くように、保護者への協力を依頼する。 ・研究部会で「学習だより」を発行 授業や学習における研究の取り組み状況を発信し、保護者の関心を高める。 ・保護者懇談会（1・2学期通知表渡し） 担任と保護者の面談 <p>鹿西小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロードマップ部会「学びの土台部会」において、生活・学習アンケートの実施 通信「すくすくぐんぐん」の発行（7・11月） <p>②中能登中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後スッキリタイム 定期テスト後に課題が達成されていない生徒や学習の定着が不十分な生徒を対象に実施。 ・家庭でのネットマナーの啓発 ゲーム依存症、ネット依存症により学習に支障が出る生徒が増えないように、啓発活動を生徒会と連携して推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習を重視しており、特に学級・学年通信による保護者への協力依頼では、家庭での学習習慣などの効果がみられた。 ・通信「すくすくぐんぐん」で科学的根拠を示しながら、家庭での生活習慣改善を啓発することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットや動画視聴、ゲーム時間の改善を図るための取り組みが必要である。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種通信の内容を充実させる。また、必要に応じて、電話連絡などで保護者の協力を依頼する。 ・家庭との連携をより強化し、放課後スッキリタイムの対象者を減らすよう取り組む。

1 学校教育 (2) ふるさと学習の推進

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○「わたしたちの中能登町資料編」を活用した学習により、地域の豊かな自然や文化・歴史遺産等の良さを学び、郷土愛高揚の促進を図る</p> <p>各小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わたしたちの中能登町資料編」(H27 作成) 小学3・4年生の社会科学習の社会科学副読本として活用 ・社会科学及び総合の時間での見学・体験学習 雨の宮古墳、石動山・大宮坊、不動滝、天日陰比咩神社などを見学し、地域の歴史や文化について学習 ・中能登町でお気に入りの場所や物を紹介するポスターを作成し、道の駅で掲示(鹿西小3年) ・「中能登町子どもふるさと検定」を継続的に実施(4年) ・豊かな自然、稲作体験学習(5年) 里山づくりISOの保全活動の取り組み 5月 田植え体験 6月 苗の生育学習、田んぼの除草作業 9月 稲刈り体験 10月 脱穀体験 11～12月 稲作新聞づくり ・石動山ユリプロジェクト(鹿島小6年) 平成28年から地元の有志の協力を得て、中庭に球根を植え、育てる取り組みを実施 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科学の地域学習や4年生が「町ふるさと検定」に取り組むことにより、町の歴史や文化に触れる良い機会となった。 ・おにぎり発祥の地であり、稲作学習や体験を通して、地域の方とのつながりもつくることのできた。 ・中能登町の良さを学び、道の駅にポスターを掲示することにより、発信することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料編が平成27年度作成のため、内容の更新が必要である。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科学だけでなく、総合的な学習の時間においても活用し、地域のことを知り、地域と関わる学習を進め、今後も郷土愛を高められるよう取り組んでいきたい。
<p>○伝承文化の体験と鑑賞</p> <p>鳥屋小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校運動会でのおにぎりダンス ・3年生の総合的な学習 「どぶろく※5」や「能登上布※6」を取り上げ、調べ学習や見学を行った ・金沢大学の出前授業による「ふるさと教育授業」(4年) 大学の教授や学生のリードのもと、すごろくで能登の資源や魅力について学んだ。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな行事が縮小されたため実施できなかったものが多くあったが、感染症対策を取りながら見学等を行うことができた。写真より本物を見て体験することで理解を深めることができた。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容によって、リモートでの交流を進めるなど、地域人材を活用していろいろな体験ができるよう、各学年で可能な限り地域についての学習を計画していきたい。 ・コロナが収束してきたため、児童の興味関心を生かし、地域と関わる学習を進めていきたい。

1 学校教育 (3) 豊かな人間性や社会性を育む教育活動の充実

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○児童会活動及び生徒会活動の重視</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥屋小学校 <ul style="list-style-type: none"> リモートでの児童集会 委員会活動 縦割り班 <ul style="list-style-type: none"> 「あいさつ・声かけ」運動（毎月15日） 石川県のスポチャレへ登録してチャレンジ なわとび練習（なわとび大会は中止） ・鹿島小学校 <ul style="list-style-type: none"> 委員会活動 縦割り班 <ul style="list-style-type: none"> 5/2 オリエンテーリング 2/22 6年生を送る会 USK（ユニバーサル スタジオ カシマ） ・鹿西小学校 <ul style="list-style-type: none"> 委員会活動 縦割り班を活用した「なかよし活動」 <ul style="list-style-type: none"> なかよし集会、なかよし掃除、 なかよしなわとび大会、 運動会での応援合戦（よさこい含む） ・中能登中学校 <ul style="list-style-type: none"> 生徒会認証式、生徒総会、委員会活動、 学年集会、学校祭、生徒会役員選挙、壮行式、 校納式、小学校6年生対象の説明会 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リモートでの児童集会、学年集会を行った。 小学校では、児童が、話をしながら見せるものの媒体の工夫の必要性を感じ、自分たちで視覚に訴えるものを準備するようになり、主体的に自分たちでできることを考え、行うことができた。 中学校では、学年集会の取り組みを充実させ、生徒間でのリーダーの育成を意識した取り組みを行うことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班での活動の代替案が見つからず、工夫を重ねることが必要である。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リモートでの取り組みができるようにする。対面での全校集会も効果が大きい。 ・校納式、壮行式の意義を生徒に伝え、実施する意義を持たせる指導も必要である。 ・リモートでの児童集会を通し、児童が聞く人を意識した呼びかけができるようになり、今後も工夫した取り組みを継続していく。

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○心に響く学校行事や各種体験活動・ボランティア活動への積極的な取り組み</p> <p>① 心に響く体験活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥屋小学校 <ul style="list-style-type: none"> 「中能登おにぎり縁結びの会」との協働学習と販売体験（5年） 絵本（宮沢賢治）講話（6年） 避難生活体験（6年） 運動会でのよさこい踊り（5年・6年） 高齢者疑似体験（4年） 「末坂もみじ会」（高齢者）との交流（4年） 学習発表会（総合的な学習と時間と生活科） 6年生を送る会（体育館で実施） 防災教室（6年） ・鹿島小学校 <ul style="list-style-type: none"> 演劇鑑賞会 9月29日 七尾東雲高校演劇科 ・鹿西小学校 <ul style="list-style-type: none"> 心に響く体験活動 <ul style="list-style-type: none"> 運動会での縦割り班対抗競技（全学年）や応援合戦（よさこい含む） 「6年生感謝デー」における5・6年生の引継ぎ式 異学年交流 ・中能登中学校 <ul style="list-style-type: none"> 学校祭 <ul style="list-style-type: none"> 合唱コンクール、体育的行事、壁新聞 修学旅行 <ul style="list-style-type: none"> 3年生 9月8日にバス遠足実施 2年生 9月6日～9月8日に実施 1年生 9月8日にバス遠足実施 <p>② ボランティア活動への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に小学校4年生の総合的な学習の時間において、誰もが住みよい町となるよう、福祉活動に関する学習を行っている。 <ul style="list-style-type: none"> 認知症キッズサポーター養成講座（4年） 高齢者疑似体験（鳥屋小4年） 避難生活体験（鳥屋小6年） 防災教室（鹿島小4年） 不動滝清掃（鹿島小6年） エコキャップ回収（鹿島小環境委員会） 保育園へのおもちゃの寄付活動 （鹿島小6年エコチーム） 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校運動会では、鼓笛演奏に代わり、よさこい踊りに挑戦するなど、例年になく新しい活動を行うことができた。 ・中学校の学校祭では、生徒の感想から協力、団結、全力、感謝、思い出など、心を一つにした行事となったことがわかる。昨年できなかった合唱コンクールも、ステージを工夫するなどして復活することができ、心を洗われる素敵なコンクールであった。 ・福祉活動の学習を通し、相手を思う気持ち、困ったときは助け合う気持ちの大切さを学ぶことができた。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を行いながら工夫して取り組み、これまでの活動を継続するだけでなく、各種体験活動が、児童生徒にとって効果的な学習となるよう、実態に応じた活動や取り組みを行う。

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○道徳教育、人権教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥屋小学校 <ul style="list-style-type: none"> 道徳授業参観（全学年一斉公開授業） 町人権標語の取り組み（5・6年） 人権擁護委員による人権教室（5年） 平和集会（全学年）8月 ・鹿島小学校 <ul style="list-style-type: none"> 8月 平和集会（全学年） 2月 人権集会（3年） ・鹿西小学校 <ul style="list-style-type: none"> 人権擁護委員による談話・花植え（6年） 人権標語応募、入選作品の掲示 きらきらさんカードの取り組み ・中能登中学校 <ul style="list-style-type: none"> 人権教室（1年）いじめ 人権教室（2年）インターネットによる権侵害 （3年）障害者 学校祭における人権新聞作成の取り組みなど 平和集会（全学年）8月7日 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事と関連づけたことで、児童は授業で学んだことを行動に表すことができた。 ・ゲストティーチャーを招いての授業は学習効果が大きい。 ・1つのテーマについて話し合う時間を持つことができ、家庭と連携した取り組みが行えた。 ・中学校では、文部科学省指定研究校として、人権教育の充実を図る取り組みの中で、いろいろな角度から理解を深めることができた。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事との関連づけや家庭と連携した道徳教育、人権教育を継続していくことが大切である。
<p>○いじめ、非行、不登校へのきめ細やかな指導及び携帯電話やスマートフォン等の使用への適切な対応</p> <p>① いじめ問題への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度に中能登町いじめ問題対策連絡協議会条例及び中能登町いじめ防止基本方針を制定 ・「いじめ」に対するの早期発見・早期対応 <ul style="list-style-type: none"> いじめアンケート調査実施（月1回）、個別面談 きめ細やかな児童理解の継続と共有 SCや専門機関との連携による早期対応 中能登中学校 <ul style="list-style-type: none"> 月1度Be brave! アンケート※7として生徒用タブレットを活用して取り組む QU アンケート※8の実施 いじめ対応アドバイザー派遣事業を活用（小中学校に派遣） 校内いじめ問題対策委員会による対応 ・弁護士による「いじめ防止教室」（鳥屋小6年） 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ事案について、管理職を中心に学校全体で取り組む体制ができ、いろいろな立場や場面からいじめを発見し、迅速な対応ができた。 ・アンケートをタブレット端末にて行うことで結果が即把握できるシステムの構築を行った。いじめにつながると思われる問題の早期把握及び改善につながった。

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>② 非行（暴力）の防止と取り組み</p> <p>関係機関と連携し、多様化する非行の現状を踏まえ犯罪被害の防止と健全育成対策を進める。</p> <p>各小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> スマートフォンやオンラインゲームによる危険性やトラブルの内容を知らせるとともに、被害回避の方法を学ぶ機会を設定している。 <p>ピュアキッズスクール</p> <p>「人のものをとってはいけない」（2年）</p> <p>「ネットトラブル」（5年）</p> <p>非行被害防止教室</p> <p>スマホ・オンラインゲーム講話（鳥屋小3～6年）</p> <p>スマホ・ケータイ安全教室（鹿島小6年）</p> <p>スマホ・ケータイ講座（鹿西小6年・全保護者）</p> <p>③ 薬物乱用防止教室</p> <ul style="list-style-type: none"> 各小中学校で、薬物・喫煙・アルコール飲酒が心身に及ぼす被害について、学校薬剤師や保健所職員、大学職員を講師に迎え、科学的根拠に基づいた講義を実施。 <p>各小学校 6年生</p> <p>中学校 2年生</p> <p>④ 不登校児童生徒への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 中能登中学校に、教室に入りづらい生徒が別室で自主学習する際に学習支援をする職員「いきいきサポートスタッフ」を配置している。 登校しぶりが見られる児童生徒に対しては、学校と保護者の面談だけでなく、スクールカウンセラーとの面談など早期対応を図っている。また、知り得た情報を基にケース会議を開いて対策を立てている。 不登校児童生徒には、学校との関係が切れないように電話や家庭訪問、タブレット端末での面談などを実施している。 <p>⑤ ネットの諸問題への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ネット被害防止 指導資料（CD）、資料「親子のホットとネット大作戦」等を活用 ノーテレビ・ノーゲームデー（毎月1回）の実施 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ノーテレビ・ノーゲームデーに合わせ、うち読デーを加えた学校もあり、取り組みの工夫がみられた。 スマートフォンやオンラインゲームに関する講座を設定したことで、夜遅くまでゲームをしていて登校できないという児童が減った。 登校しぶりが見られるようになった児童に対して、担任だけでなく、関係職員やスクールカウンセラー、町こども家庭センターなどと連携し、組織的に対応できた。 不登校児童生徒への対策については、教室に入りづらい児童に対してはほとんどルーム設置が有効に機能している。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> きめ細やかな児童生徒理解を継続し教職員間での共有を図っていく。 スマートフォンやゲームとの向き合い方を考える指導は今後も継続し、年1回の講座開催ではなく、PTAとも連携し、年数回にわたって計画的に実施していく必要がある。 不登校児童生徒への対応については、学校に来ることができない児童生徒に対する支援策を充実させる必要がある。また、解決が困難な場合はSSW※9を活用し対応していく。

1 学校教育 (4) スポーツの振興

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○町体育協会などスポーツ団体との連携による支援体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校 運動部活動指導等において、生徒の運動能力向上に努めた。 外部コーチを要請し配置（12部活動） 部活動指導員の配置（3部活動） 男女バドミントン部（H30～） 弓道部（R1～） 男子ソフトテニス部（R2～） 休日の部活動地域移行 準備段階のため移行無し 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、中学校の3運動部活動に部活動指導員を配置し、活用することができた。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後ともスポーツ団体等との連携を図り、部活動の支援体制を整える。 ・今年度より、休日の部活動地域移行の取り組みが開始したが、引き続き取り組む。
<p>○スポーツ教室への加入促進や部活動の活性化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小学校の体育館において、放課後スポーツ教室を実施。地域の運動指導者の協力により、児童の基礎体力の向上に努めた。 実施日：9月～翌年3月（各小学校月1回） 参加者：鳥屋小 2.3年生 実19人 鹿島小 2年生 実20人 鹿西小 2.3年生 実21人 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力の向上のみならず、運動に親しむ態度の育成にも寄与することができた。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者向けにアンケートを実施したところ、実施回数を増やしてほしいという意見が対数あったことから、学校と調整のうえ、実施回数を増やす方向で検討する
<p>○活動費の助成や大会派遣への支援体制の強化</p> <p>① 小学生のスポーツ活動 いしかわっ子駅伝交流大会の参加費等補助を実施</p> <p>② 中学校体育連盟が主催する大会、準ずる大会の派遣費補助を実施（全額補助）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国中学校体育大会及びJOC全国大会 （団体）駅伝男子、駅伝女子 （個人）柔道女子1名、剣道男子1名、剣道女子1名 ・関東・東北・北信越少年新人軟式野球大会 県代表として参加 ・若鷲旗剣道大会 女子団体 ・北信越中学校体育大会 （団体）駅伝男子、駅伝女子、剣道女子、バドミントン男子 （個人）柔道男子2名、柔道女子3名、陸上男子5名、水泳男子1名、剣道男子1名、剣道女子1名、バドミントン男子ダブルス1組、バドミントン男子シングルス1名、ソフトテニス女子2名 <p>③ 石川県大会は参加費等及び交通費の補助を実施</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあったが、小学校では3小学校の男女共に、いしかわっ子駅伝交流大会の参加することができた。 ・中学校では、生徒は練習を重ね、北信越大会及び全国大会へ出場をつかんだ競技があり、大会派遣にかかる必要な経費を補助することができた。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して支援を行う。

1 学校教育 (5) 安全安心な学校づくり

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○交通安全意識の高揚と実践</p> <p>①交通安全教室の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥屋小（全学年） 通学路の安全な歩き方（低学年） バスの乗り方 自転車の乗り方 ・鹿島小（1・2年） 4月 1・2年交通安全教室（二宮駐在所巡査） 7月 3・4年交通安全教室（町女性協議会） ・鹿西小（1年） 交通ルール、安全な横断の仕方について学習 ・中能登中 DVD等を活用し交通安全について学習 <p>②交通安全街頭指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動の一環として、毎月15日実施 ・通学路の安全な歩き方指導 ・バスの乗り方指導 <p>③見守り隊などボランティア活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的に街頭指導，児童の登下校の見守り、校区内の夜間巡視など，各小学校PTAと連携し、年間を通して通学の恒常的な安全確保に努めた。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室や街頭指導により、通学路の安全な歩き方や自転車、バスの乗り方等についての知識を得られ、児童生徒の意識を高められた。 ・見守り隊などのボランティアやPTAの協力により、継続的に街頭指導、児童の登下校の見守りなど、年間を通して通学の恒常的な安全確保に努めることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全パトロール隊のメンバーの高齢化により参加者が減少している。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室は、今後も感染症対策を行いながら実施し、日常の注意や道路の安全について意識づけを図る必要がある。 ・引き続き、関係機関や見守り隊などのボランティアと連携しながら、安全安心な登下校に努めていきたい。
<p>○防災訓練等の充実（地震、洪水、土砂災害、原発事故等）</p> <p>① 避難訓練の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校で年度初めに計画された防災計画に基づき、地震、土砂、火災、原発事故、不審者対応などを想定し、年間2～3回程度の避難訓練を実施。 ・保護者への引き渡し訓練。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練では、児童が自分事として考えられるように、具体的な災害の場所の想定をし、実際の資機材を用いて行った。 結果、児童に避難する際の具体的なイメージをもたせることができた。 ・マップ作りで防災意識の高揚が図られた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部の訓練の実施にとどまったので計画的な実施に取り組む。

事業の名称及び実施概要	点検及び評価												
<p>② 防災マップの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険箇所や避難場所について、子ども会を開催し、各地区の下級生に説明（鹿島小） <p>③ 各種防災訓練への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Jアラート※¹⁰訓練やシェイクアウトいしかわ等、県・町防災訓練等への積極的な参加 <p>④ 災害に関する学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校一斉に土砂災害に関する学習を実施（鹿島小） 	<p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も策定された避難確保計画に基づき、避難訓練を年間予定に位置付けて計画的に実施する。 ・想定される災害の避難訓練を実施し、検証と改善を行っていく。 												
<p>○通学路の定期点検</p> <p>①通学路の合同点検の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小学校で通学路の安全点検及び各関係機関と連携した通学路の点検を実施した。 <table border="0" data-bbox="220 869 502 1025"> <tr> <td>鳥屋小</td> <td>8月</td> <td>8日</td> </tr> <tr> <td>鹿島小</td> <td>8月</td> <td>10日</td> </tr> <tr> <td>鹿西小</td> <td>8月</td> <td>8日</td> </tr> <tr> <td>中能登中</td> <td>8月</td> <td>10日</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・点検結果に基づき、関係機関にて危険箇所の改善を図った。 ・点検結果の公表 「中能登町通学路安全プログラム」（町ホームページに掲載）に基づき公表。 <p>②通学体験を通じて指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小学校にて実施した。 	鳥屋小	8月	8日	鹿島小	8月	10日	鹿西小	8月	8日	中能登中	8月	10日	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各関係機関と連携しながら通学路の点検を実施し、危険箇所の改善を図ることができる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節や時間帯を考慮した点検の実施が求められている。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も安全重視の視点で、通学路の点検を行い、早期改善に努め、危険箇所を減らし、安全安心な通学路に努めていきたい。
鳥屋小	8月	8日											
鹿島小	8月	10日											
鹿西小	8月	8日											
中能登中	8月	10日											

1 学校教育 (6) 特別支援教育の充実

事業の名称及び実施概要	点検及び評価				
<p>○家庭・保育園等・学校・教育委員会の定期的な懇談会の実施</p> <p>① 保育園、子ども園訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間2回～3回 町内保育園、子ども園を訪問 (教育委員会) ・夏休み期間等、町内保育園、子ども園を訪問 (小学校教諭) <p>② 年中児巡回相談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月～10月 町内保育園を訪問 (教育委員会) <p>③ 未就学児及び在学児童生徒の相談などの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県教育相談 6月13日 ・県就学相談 9月14日 ・町就学相談 8月22日 10月5日 ・教育支援委員会 11月24日 <p>④ 定期的な小学校への訪問 (教育委員会)</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年中児巡回相談では、次年度への就学に向けてのつながりをもつことができた。 ・保育園訪問等を通して、新1年生児童のスムーズな受入れができた。 ・学校においては、家庭や町子育て支援室、教育委員会と連絡を取り、対策を話し合うことができた。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も連携が図られるよう継続していきたい。 				
<p>○特別支援教育支援員の適正配置と研修の充実</p> <p>① 各小中学校に特別支援教育支援員を配置</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">鳥屋小学校 3名</td> <td style="width: 50%;">鹿島小学校 6名</td> </tr> <tr> <td>鹿西小学校 4名</td> <td>中能登中学校 5名</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・支援員打合せ会 支援員・校長・特別支援教育コーディネーター・特別支援学級担任で週1回定期的に打合せを実施し情報共有している。 ・特別支援教育コーディネーターが、特別支援教育支援員の配置計画を立案している。学級担任や管理職等とも支援状況を確認しながら適正な配置に努めている。 	鳥屋小学校 3名	鹿島小学校 6名	鹿西小学校 4名	中能登中学校 5名	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校の状況に応じた支援員の配置により、個々に応じた支援が行われ、学校全体の落ち着いた学習環境づくりに大きく寄与している。 ・研修会で、指導主事から支援員の役割の基本についてと日頃の対応の仕方等を学ぶことができた。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も状況に応じ、特別支援教育支援員の配置を行い、研修会や打合せ会において、支援員の視点や児童に関する情報を得ながら、児童生徒に寄り添って、効果的な支援につなげたい。
鳥屋小学校 3名	鹿島小学校 6名				
鹿西小学校 4名	中能登中学校 5名				

事業の名称及び実施概要	点検及び評価																						
<p>○特別支援学級の整備充実</p> <p>① 特別支援学級</p> <table border="0" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">小学校</td> <td style="text-align: center;">中学校</td> </tr> <tr> <td>(知的)</td> <td style="text-align: center;">3学級</td> <td style="text-align: center;">1学級</td> </tr> <tr> <td>(自閉・情緒)</td> <td style="text-align: center;">5学級</td> <td style="text-align: center;">2学級</td> </tr> <tr> <td>(難聴)</td> <td style="text-align: center;">1学級</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td>(肢体不自由)</td> <td style="text-align: center;">1学級</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td>(病弱)</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">1学級</td> </tr> </table> <p style="margin-left: 40px;">小中学校特別支援学級の交流会の実施 12月8日 合同クリスマス会</p> <p>② 通級指導教室</p> <table border="0" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>小学校</td> <td style="text-align: center;">3教室</td> <td>中学校</td> <td style="text-align: center;">1教室</td> </tr> </table>		小学校	中学校	(知的)	3学級	1学級	(自閉・情緒)	5学級	2学級	(難聴)	1学級	—	(肢体不自由)	1学級	—	(病弱)	—	1学級	小学校	3教室	中学校	1教室	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通級教室では、児童の困り感に応じた対応ができ、希望者が増え、弾力的運用も増えている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感情のコントロールが難しい子への対応に苦慮する場面がある。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援を必要とする児童生徒に応じて、必要な学級を整備確保していく。 ・健康保険課子育て支援室や関係機関と連携を深める。
	小学校	中学校																					
(知的)	3学級	1学級																					
(自閉・情緒)	5学級	2学級																					
(難聴)	1学級	—																					
(肢体不自由)	1学級	—																					
(病弱)	—	1学級																					
小学校	3教室	中学校	1教室																				

1.1 学校教育 (7) 教育委員会と学校及び関連機関との連携した取り組み

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○教育委員会の学校訪問</p> <p>1. 実施日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画訪問 鳥屋小 6月 1日 (木) 鹿島小 6月 21日 (水) 鹿西小 6月 26日 (月) 中能登中 5月 24日 (水) <p>2. 内容</p> <p>(1) 学校経営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校長の経営ビジョンに基づいた組織的運営 ・ 人材育成 (若手育成体制) <p>(2) 授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ねらいを明確にした授業の研究 ・ スタートカリキュラムの実施状況観察 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校訪問により学校長の経営ビジョンの具現化の実態や、若手教職員の育成状況、児童生徒の変容を把握することができた。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一回の視察で全てを把握することは難しい。事前に各校の課題とその改善策を把握しておく必要がある。また、後期にも教育委員会訪問を持ち、学校の経営状況を把握し指導する必要がある。
<p>○教育関連施設の現状視察や町PTA連合会との懇談会の開催</p> <p>① 教育委員会視察研修 今年度なし</p> <p>② 町PTA連合会との意見交換 (書面回答) 内 容：町や教育委員会への要望について 実施日：令和5年9月</p>	<p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町PTA連合会との意見交換は、書面回答では深まらない。今後は、対面形式での意見交換にしていきたい。

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○教育委員会に指導主事を配置</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 29 年度より教育委員会に指導主事を 1 名配置 I C T 機器の活用促進やスキルアップ 英語教育、特別支援教育の推進 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> スキルアップマップによって、児童生徒のタブレットに関わるスキルアップが図られた。 各種教育を進める上で、指導助言を受けやすくなった。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> I C T 利用の安全教育が必要となる。
<p>○教育委員の研修参加</p> <p>① 教育委員会連合会研修参加</p> <p>(1) 定期総会・講演会</p> <p>実施日 令和 5 年 5 月 9 日 (火)</p> <p>場 所 金沢市教育プラザ富樫</p> <p>演 題 「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方</p> <p>講 師 文部科学省総合教育政策局 教育人材政策課長 後藤 教至 氏</p> <p>(2) 教育委員会セミナー</p> <p>実施日 令和 5 年 8 月 1 日 (火)</p> <p>場 所 金沢市役所第 2 本庁舎</p> <p>演 題 「長谷川等伯の生涯と作品」について教師の在り方</p> <p>講 師 石川県七尾美術館 館長 北 春千代 氏</p> <p>(3) 研究大会</p> <p>実施日 令和 5 年 1 0 月 2 7 日 (火)</p> <p>場 所 辰口福祉会館 (能美市)</p> <p>内 容 ・ 県教育次長による講和 ・ 研究協議 (教育行財政・学校教育 社会教育)</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 求められる教育人材について良い学びがあった。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も教育委員会連合会の研修、セミナーに積極的に参加し見識を広めていきたい。
<p>○社会教育委員との連携</p> <p>・グットマナーキャンペーン街頭指導 (9/4~9/8) 町内の J R 4 駅周辺において、街頭指導の実施。 社会教育委員の協力、その他 11 団体の協力を得て実施。 社会全体で青少年の規範意識の向上、心の教育を推進する機運を高めた。</p>	<p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な取り組みを推進し展開してくためにも社会教育と連携を図っていきたい。

1 学校教育 (8) 学校と家庭と地域の連携強化

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○中能登プロジェクトの発展 コミュニティ・スクールの推進 鹿西小学校と中能登中学校にコミュニティ・スクールを設置できた。</p> <p>① 中学校においてコミュニティースクールを活用して部活動の地域移行を進めた。 陸上部・男子バスケットボール部・男女ソフトテニス部・剣道部・柔道部が移行できた。</p>	<p>【成果】 ・コミュニティ・スクールにより、地域と繋がった教育活動が展開できている。</p> <p>【今後の方向性】 ・今後も、地域連携を含め、中学校では部活動地域移行を進めていきたい。</p>
<p>○学校行事・町行事への参加の呼びかけ</p> <p>① ケーブルテレビ（なかのとチャンネル）放送 ・「こども通信」にて各小中学校の取り組み等を紹介 ・「なかのとスペシャル」</p> <p>② その他広報 ・学校だよりを発行 家庭へ配布及び地区への回覧 ・学校ホームページに掲載 ・DVDに収録し配布 中学校の学校祭を収録し、各家庭で鑑賞</p>	<p>【課題・成果】 ケーブルテレビやホームページ、広報などを活用し取り組みを紹介することができた。</p>
<p>○食育の推進</p> <p>① 教科等における食に関する取り組み ・栄養教諭による生活科の授業</p> <p>② 学校給食における食に関する取り組み ・栄養教諭、栄養士による巡回指導 ・給食委員等による食育放送 ・栄養教諭、担任による講話 ・給食委員会による栄養素分布パネル掲示 ・地場産物の活用 給食を通して郷土を愛する心を育むために地場産物を献立に活用し理解を深めた。 米（コシヒカリ100%）、古代米（1月に1回） イセヒカリ米（高校入試前2回）、ねぎ、キャベツ にんじん、白菜、玉ねぎ、かぶ、金糸瓜、空心菜 小菊かぼちゃ ・給食の残量調査を通し、食品ロスの改善を図った。</p> <p>③ 家庭・地域との連携に関する取り組み ・毎月発行の「給食だより」による食育の推進 中学校では、メール配信及びHPへの掲載 家庭で食の話題となるような取り組みや朝食の重要性を掲載するなど、家庭への啓発に取り組んだ。</p>	<p>【成果】 ・食育を通し、地域の食材に関する理解を深めることができた。 ・給食を残さずに食べようとする意識が見られる。 ・小中全体で朝食欠食率は3.3%であり減少している。</p> <p>【今後の方向性】 ・生活習慣の改善に重点をおき、食習慣の改善方法を探り、食育の推進に努めていきたい。 ・地場産物の活用が増えている。今後も、地場産物の活用に努めたい。</p>

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○あいさつ運動や街頭指導の組織化と実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「グッドマナーキャンペーン」街頭指導（9月） （教職員及びPTA保護者） ※再掲 ・街頭挨拶運動、交通安全指導 （教職員及びPTA保護者） 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTAや地域の見守り隊と連携し、学校と地域で一体的に街頭指導を行うことができた。 ・車で送迎する保護者のマナー遵守、日常的なあいさつの定着へもつながっている。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見守り隊を再度募集しながら、学校と家庭、地域が連携して児童を見守る体制を継続する。
<p>○社会教育団体との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせボランティア（年7回） 各小学校において「朝の読み聞かせ」実施 	<p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種団体と連動しながら継続したい。
<p>○教育力の向上を目指す学校・家庭・地域のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校 <ul style="list-style-type: none"> 租税教室の開催（6年） 地域の人材活用（人材の把握と協力依頼） 「学校だより」による教育活動の周知 ・中能登中学校 <ul style="list-style-type: none"> 学校での強化取り組みである「なかのとスタンダード」「なかのとルーティン」「なかのとネットマナー」などの徹底。 学校だより・生徒指導だより等により保護者への取り組みの啓発を図っている。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材・資源を活用することで、生きた授業、実際の体験から教養と見聞を広めることができた。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校では、来年度も更に上のレベルを目指し「なかのと High Standard」の強化を図っていきたい。

1 学校教育 (9) 中能登らしい学校教育の推進

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○区域外通学の弾力的運用</p> <ul style="list-style-type: none"> 中能登小中学校への区域外就学児童生徒数 中学生 13人 小学生 1人 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の区域外通学について弾力的運用ができ定着してきている。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も、子どもの可能性を伸ばすためにも体制を確保したい。
<p>○進路相談及び進路学習の充実</p> <p>中能登中学校</p> <p>① 高校説明会 七鹿羽咋郡市の高校</p> <p>② キャリア教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 「中能登しごと館」(8回目) PTCA※11 活動と協働 実施日: 10月28日(土) 土曜授業 場 所: 中能登中学校 受講者: 中学生全員 内 容: 仕事の職種 30講座を設置 講 師: 保護者、地域の方々 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「中能登しごと館」を約30講座で実施できた。 毎年実施されており、生徒がさまざまな職業について、ホンモノに触れ、働くということについて考える貴重な機会となっている。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「中能登しごと館」は、キャリア教育の一環として PTA 活動と協働した取り組みであり継続して実施したい。
<p>○小学校と中学校及び鹿西高等学校との連携</p> <p>① 小学校と中学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 保小中連携推進委員会(年3回) 中学校部活動見学 中学校生徒による部活動紹介 小学6年生がすべての部活動を見学 ピアサポート※12の実施 中学1年生が小学6年生の抱えている中学校生活の不安に回答する 小中連絡会(学級編制を中心に実施) <p>② 中学校と鹿西高等学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 「高校学習会」 鹿西高校からの5教科の出前授業。 鹿西高校生が中学3年の生徒に学習指導。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでのドリームスリー(3小学校の交流と中学校見学)を、中学校部活動見学とし、中学校生徒が主体的に取り組み中で、小学生が体験できる方法に見直しを行った。 生徒指導主事による出前授業やピアサポートは、中1ギャップを解消する上で大変効果的であった。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中高の連携では、教科面や生徒指導面において出前授業は欠かせない取り組みであると考え。またピアサポートは、メンタル面のサポートに欠かせない取り組みと捉え、今後はこの2つの取り組みを両輪に軸として連携を強化していきたい。

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○学術文化など最先端に行く技術や知識を知る学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校巡回公演事業 11/20 「スーパーパントマイムシアターSOUKI」パントマイム鑑賞（鳥屋小） 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本物の文化芸術作品に触れる貴重な機会となった。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本物の文化芸術に触れられる貴重な機会として、今後も継続していく。
<p>○環境教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校 「いしかわ学校版環境ISO」の取り組み（毎年） 「エコキャップの収集」（町と連携した取り組み） ・鳥屋小学校 校内消毒のための、不要タオルを収集 ・鹿島小学校 久江川、地獄谷川、二宮川の水質調査 ・鹿西小学校 愛鳥モデル校指定（H30～R6）による取り組み 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・節電・節水は、校内掲示等で呼び掛け、空き教室の消灯が徹底された。エコキャップの収集は箱にあふれるほど集まり、関心の高い取り組みであった。 ・地域の川の水質調査を行うことで地域の環境問題について考えることができた。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境問題に関心をもって行動していく児童生徒を育てる。 また、SDGsの取り組みと環境教育を連動させ推進していきたい。

2 学校施設・設備の整備充実 (1) 学校設備事業

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○事業の概要</p> <p>① 鳥屋小学校</p> <p>(1) 工事名 能登半島地震緊急被災箇所修繕工事 工 期 令和6年2月8日～3月22日 工事費 1,811,700 円 内 容 空調設備、屋外設備修繕</p> <p>② 鹿島小学校</p> <p>(1) 工事名 能登半島地震緊急被災箇所修繕工事 工 期 令和6年3月22日～3月31日 工事費 165,000 円 内 容 受水槽設備修繕</p> <p>③ 鹿西小学校</p> <p>(1) 工事名 屋外プール内トイレ洋式化工事 工 期 5月8日～6月30日 工事費 1,053,800 円 内 容 男子1基、女子2基</p> <p>(2) 工事名 能登半島地震緊急被災箇所修繕工事 工 期 令和6年1月10日～3月8日 工事費 605,000 円 内 容 給排水設備修繕</p> <p>④ 中能登中学校</p> <p>(1) 工事名 施設更新工事 工 期 8月18日～令和6年3月25日 工事費 37,510,000 円 内 容 アリーナ・サブアリーナ 屋内照明 LED 化 421 台 アトリウム丸柱補修1本 アトリウム棟防鳥ネット張り 1,800m²</p> <p>(2) 工事名 能登半島地震緊急被災箇所修繕工事 工 期 令和6年2月5日～3月25日 工事費 1,351,900 円 内 容 空調設備、舗装修繕</p> <p>⑤ 旧久江小学校</p> <p>(1) 工事名 能登半島地震緊急被災箇所修繕工事 工 期 令和6年2月29日～3月25日 工事費 5,335,000 円 内 容 屋根瓦修繕</p>	<p>【成果】</p> <p>児童生徒の学習保障のための環境を整え、学校活動の継続を支援することができた。 能登半島地震で被災した学校施設の復旧を行うことができた。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>引き続き、能登半島地震で被災した学校施設の復旧を行いたい。 また、引き続き、学校施設等の充実を図り、安心安全な環境づくりに努めたい。</p>

3 学校給食 (1) 学校給食

事業の名称及び実施概要	点検及び評価																												
<p>○学校給食費の第2子以降無償化</p> <p>①学校給食費の助成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中能登町に住所を有し、18歳に達する以後の3月31日までの間にある対象児童生徒を2人以上扶養している保護者へ助成する。 <p>②助成実績</p> <table border="1" data-bbox="165 465 762 712"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥屋小学校</td> <td>149人</td> <td>140人</td> <td>149人</td> </tr> <tr> <td>鹿島小学校</td> <td>213人</td> <td>197人</td> <td>194人</td> </tr> <tr> <td>鹿西小学校</td> <td>112人</td> <td>103人</td> <td>93人</td> </tr> <tr> <td>中能登中学校</td> <td>192人</td> <td>201人</td> <td>195人</td> </tr> <tr> <td>町外学校</td> <td>13人</td> <td>11人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>679人</td> <td>652人</td> <td>641人</td> </tr> </tbody> </table>		R3	R4	R5	鳥屋小学校	149人	140人	149人	鹿島小学校	213人	197人	194人	鹿西小学校	112人	103人	93人	中能登中学校	192人	201人	195人	町外学校	13人	11人	10人	合計	679人	652人	641人	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年から始まった、第2子以降の児童生徒の給食費無償化により、子育て世代への負担軽減につながった。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食費助成制度がわかりやすいものとなるよう、助成制度のあり方を検討していく。
	R3	R4	R5																										
鳥屋小学校	149人	140人	149人																										
鹿島小学校	213人	197人	194人																										
鹿西小学校	112人	103人	93人																										
中能登中学校	192人	201人	195人																										
町外学校	13人	11人	10人																										
合計	679人	652人	641人																										
<p>○学校給食費の公会計化</p> <p>平成30年度から町予算に組み入れ管理・運用を行う「公会計制度」を採用。</p> <p>学校給食費の徴収管理システムを導入し運営している。</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食費の公会計化により、教職員の負担軽減が図られた。 																												

4 文化財 (1) 文化財保護事業

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○伝統的建造物群保存対策事業 町民へ周知を図ることを目的として、各地区の成果報告を行った。</p> <p>実施日：6/11、7/2、7/30、8/27、9/10</p>	<p>【成果】 ・町民へ事業の周知ができた。</p> <p>【課題】 ・条例制定に基づいた保存活用計画の策定。 ・地区の同意。</p> <p>【今後の方向性】 ・保存活用計画を策定し保存審議会に諮る。地区説明会を行い、地区の同意をまとめる。</p>
<p>○史跡石動山保存整備事業 発掘調査により出土した遺物または記録した図面の資料整理を実施した。</p>	<p>【成果】 ・調査報告書刊行のための基礎資料の整理を実施した。</p> <p>【課題】 ・史跡整備にかかる調査が長年行われてきた石動山では、膨大な出土遺物と記録した図面があり、整理作業に時間を要している。</p> <p>【今後の方向性】 ・引き続き、整理作業を実施する。</p>
<p>○町内遺跡発掘調査等事業</p> <p>①試掘調査等 宅地造成等の開発行為が増加傾向にあり、試掘調査等を行い埋蔵文化財保護に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財の照会 7件 ・試掘調査 1件 <p>②古墳の測量調査 古墳は町の特色を示す文化財のひとつであり、複数年計画で調査を実施。調査内容は古墳群の踏査及び測量調査を実施。</p> <p>令和5年度は調査指導委員会の助言を得ながら、水白円山4号墳の測量調査を行い、従来前方後円墳と考えられていた墳形が円墳である可能性を指摘できる成果を得た。</p>	<p>【成果】 ・開発事業との調整が図られ、埋蔵文化財保護に努めることができた。 ・古墳の調査では、古墳を測量し、墳形を検証するための資料を得た。 ・発掘調査は地震の影響で一部を次年度へ繰り越すこととなった。</p> <p>【課題】 ・調査成果の詳細な検証。</p> <p>【今後の方向性】 ・文化財保護法に基づき埋蔵文化財の保護措置を適切に実施していく。 ・古墳の調査については事業の成果を地域へ還元することで、文化財の保存・活用の活性化を促す。 ・発掘調査は次年度で調査の終了、その報告書作成まで行う。</p>

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>③発掘調査</p> <p>県営ほ場整備事業（面的集積型）中能登北部地区に係る埋蔵文化財の発掘調査を県より委託を受けて実施。</p> <p>遺跡名：在江ドウコダ遺跡・廿九日ヒガシデ遺跡 ※能登半島地震により調査を一部次年度へ繰り越し</p>	
<p>○県指定伊須流岐比古神社保存修理事業</p> <p>①文化財の概要</p> <p>文化財の名称 伊須流岐比古神社本殿及び拝殿 指定年月日 昭和42年10月2日指定（県指定） 所有者 石動山区 建築年代 本殿：承応2年（1653） 拝殿：元禄14年（1701）</p> <p>②文化財の現状</p> <p>これまで大規模な修理を行っていないことから、近年では破損箇所や建物全体が大きく傾くなど保存修理が喫緊の課題となっている。</p> <p>③事業の内容</p> <p>県指定文化財を守り伝えるため保存修理工事を実施するための調査を実施。</p> <p>文化財的価値を確認するための調査及び保存修理に向けての図面の作成を実施し、報告書を刊行する。その他、保存修理に伴う所有者負担分を確保するため、寄付金を募るリーフレットを作成した。</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財調査では、拝殿以前の神輿堂の旧態を知ることができる調査成果があった。報告書作成業務については、能登半島地震の影響から令和6年度へ繰越しとした。寄付金募集のリーフレットを作成して、活動を実施した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財所有者が区であることから、事業費の所有者負担分が修理における課題である。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 次年度も引き続き、県指定文化財建造物である伊須流岐比古神社の調査成果を報告書にまとめる。
<p>○指定・登録文化財の保護</p> <p>①文化財保護審議会の開催</p> <p>開催日 令和5年6月30日（金） 場所 ふるさと創修館 委員数 5名</p> <p>②文化財パトロール</p> <p>実施日 令和5年6月、9月 文化財名 伊須流岐比古神社本殿及び拝殿 旧観坊 雨の宮古墳群</p> <p>③指定文化財の維持管理助成 42件</p> <p>④史跡の保護</p> <p>現状変更等許可申請 6件</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 審議会を開催して、委員より指導・助言を得た。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定文化財が多様であるため、各文化財に適した保存方法が求められる。文化財所有者・管理者・保護団体へはそれぞれの文化財に適切な保存措置と、文化財保護の指導及び助言が必要である。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定や登録されるべき文化財の調査や研究を進め、文化財の保存と活用が適切に図られるよう努める。

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○文化財防火デーに伴う防火訓練の実施</p> <p>実施日時</p> <p>実施場所</p> <p>参加者</p> <p>訓練内容</p> <div style="border: 1px solid black; width: 80px; height: 25px; margin: 10px auto; text-align: center;">中 止</div>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年能登半島地震における災害復旧対応優先のため訓練を中止した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化財愛護精神の醸成。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財防火デーにあわせて訓練を実施し、地域住民の文化財愛護精神の醸成や防火への備えを確認していきたい。

4 文化財 (2) 文化財管理運営事業

事業の名称及び実施概要	点検及び評価																		
<p>○史跡・文化財施設の管理運営状況</p> <p>①石動山歴史の広場（史跡公園）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大宮坊（復元建物 H14 年度完成） <ul style="list-style-type: none"> 見学者数 2,542 人(12/1～3/20 冬季休場) 管理内容 除草・樹木植栽管理 雪囲い設置(12/1～3/20) ・旧観坊（県指定文化財） <ul style="list-style-type: none"> 建物維持のため通風薪焚きの実施(12/1～3/20) ・石動山資料館の管理運営 <ul style="list-style-type: none"> 入館者数 665 人(12/1～3/20 冬季休館) <p>※能登半島地震の影響により R6. 3/21～3/31 は休館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設維持管理 <ul style="list-style-type: none"> 園内管理（草刈・芝生・樹木・倒木処理）、トイレ管理 <p>②県営能登歴史公園（石動山地区）管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設概要（H18 年度から町指定管理） <ul style="list-style-type: none"> 開設面積：16.3ha 主な施設：遺構広場、芝生広場、便所、駐車場 ・公園利用者数 8,493 人 ・自主事業（イベント）の内容と参加人数 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>石動山史跡を訪ねるつどい</td> <td>(5/3)</td> <td>115 人</td> </tr> <tr> <td>石動山ユリ展</td> <td>(7/12～20)</td> <td>278 人</td> </tr> <tr> <td>石動山スタンプラリー</td> <td>(7/30～9/25)</td> <td>89 人</td> </tr> <tr> <td>石動山秋のつどい</td> <td>(10/22)</td> <td>76 人</td> </tr> <tr> <td>石動山トレイルラン</td> <td>(11/5)</td> <td>95 人</td> </tr> <tr> <td>出前講座等</td> <td></td> <td>42 人</td> </tr> </table> ・施設維持管理 <ul style="list-style-type: none"> 園地管理（除草、芝生、樹木、倒木処理）、公園管理事務所運営、公衆トイレ管理 修繕（ロープ柵、駐車場車止め、水道施設、園路、園内施設等） <p>③雨の宮古墳公園（史跡公園）・グリーン広場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な施設 <ul style="list-style-type: none"> 雨の宮能登王墓の館 入館者数 1,749 人(12/1～3/20 冬季休館) <p>※能登半島地震の影響により R6. 3/21～3/31 は休館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設維持管理 <ul style="list-style-type: none"> 雨の宮能登王墓の館の管理運営 雨の宮能登王墓の館空調設備改修工事 雨の宮 2 号墳階段修繕 雨の宮 1 号墳周辺樹木伐採業務委託 芝生・樹木管理及び除草作業 	石動山史跡を訪ねるつどい	(5/3)	115 人	石動山ユリ展	(7/12～20)	278 人	石動山スタンプラリー	(7/30～9/25)	89 人	石動山秋のつどい	(10/22)	76 人	石動山トレイルラン	(11/5)	95 人	出前講座等		42 人	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財の保護を図りながら定期的に公園内の芝生・樹木管理、公園施設の維持管理を行った。 また、利用については、学校教育、社会教育の場として活用することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石動山歴史の広場においては施設（大宮坊等）の経年劣化が目立つようになり、定期的な修繕が必要である。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・史跡の適切な維持管理と活用を推進していき、リピーターや新規来園者の増加に努める。 <div data-bbox="948 1106 1406 1458" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">自主事業 石動山ユリ展</p> <div data-bbox="943 1608 1401 1955" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">自主事業 石動山秋のつどい</p>
石動山史跡を訪ねるつどい	(5/3)	115 人																	
石動山ユリ展	(7/12～20)	278 人																	
石動山スタンプラリー	(7/30～9/25)	89 人																	
石動山秋のつどい	(10/22)	76 人																	
石動山トレイルラン	(11/5)	95 人																	
出前講座等		42 人																	

事業の名称及び実施概要				点検及び評価
○被災した文化財の状況				<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内文化財について被災状況を確認した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の補助金を使用して復旧対応していくが、補助制度のない文化財の復旧についてはどのように費用を工面するか検討していかなければならない。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国指定の文化財については被害規模が大きいことから、有識者を入れて指導・助言をもらいながら事業を進めて
①被災した文化財				
番号	指定区分①	指定区分②	被害文化財	
1	国	重文文化財	石川県雨の宮一号墳出土品	
2	国	史跡	雨の宮古墳群	
3	国	史跡	石動山	
4	国	登録有形文化財	旧丹後家住宅主屋	
5	国	登録有形文化財	旧丹後家住宅土蔵	
6	国	登録有形文化財	旧丹後家住宅表塀	
7	国	登録有形文化財	旧丹後家住宅庭門及び塀	
8	国	登録有形文化財	旧稲呂家住宅主屋建物	
9	県	有形文化財	伊須流岐比古神社本殿及び拝殿	
10	県	有形文化財	旧観坊	
11	町	建造物	大宮坊石層塔笠石	
12	町	建造物	滝尾日輪舎	
13	町	彫刻	木造弘法大師坐像（石動山）	
14	町	史跡	徳前古墳群	
15	町	史跡	金丸鳥屋塚古墳	
②復旧対応				
<ul style="list-style-type: none"> ・町内にある文化財の被災状況を把握 ・被害の大きい文化財について、適宜シート養生して風雨による二次的な損壊の防止 ・県文化財課への被害報告 				

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○講座・企画展の開催</p> <p>①出前講座（郷土学習の支援）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中能登町歴史文化の招待 10件 ・学校・団体等の見学 <p>雨の宮古墳群 団体数 15件</p> <ul style="list-style-type: none"> 4/25 鹿西高校 (1年) 4/26 羽咋工業高校 (2年) 5/31 金沢市朝霧台小学校 (6年) 6/15 津端町立津端小学校 (6年) 6/29 金沢市夕日寺小学校 (6年) 6/30 鹿西小学校 (6年) ほか <p>②企画展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本最古のおにぎりルーツ展」（国民文化祭事業にて開催） <p>実施期間 令和5年10月15日(日)～11月26日(日)</p> <p>入場者 2,149人</p> <p>③体験講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つくって学んで体験講座 <p>第1回 兜づくり</p> <p>実施日 令和5年4月22日(土)</p> <p>参加者 14人</p> <p>第2回 獅子頭づくり</p> <p>実施日 令和5年9月17日(日)</p> <p>参加者 14人</p> <p>第3回 勾玉づくり、銅鏡づくり、蓬萊づくり</p> <p>実施日 令和5年12月16日(土)</p> <p>参加者 28人</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座や企画展を通して、町内の文化財や近現代の歴史や文化に対する理解が深まったと考えている。 ・ふるさと創修館図書室内の体験コーナーでは、体験講座を実施し、親子で歴史や文化を学ぶ場を提供できた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校との連携が希薄である為、子どもたちに郷土愛や学校授業の理解を高めてもらえる機会が少ない。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財に対する理解と愛護の精神をもっていただくよう、現地での学習や体験学習等を通じて、郷土の歴史文化を伝える機会を広く提供していく。 <div data-bbox="933 1041 1417 1406" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1045 1417 1300 1451">体験講座 兜づくり</p> <div data-bbox="933 1489 1417 1854" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1045 1865 1300 1899">体験講座 蓬萊づくり</p>

5 生涯学習の振興 (1) 社会教育施設の充実

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○文化芸術活動を通じた交流、発表の場とする</p> <p>①文化まつりの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施日 令和5年11月3日(祝・金)～5日(日) ・会場 ラピア鹿島、カルチャーセンター飛翔 ・作品展示 36団体、815人作品、1,141作品出展 ・入場者 約1,500人 ・芸能発表 39団体、278人出演、入場者約500人 ・講演会 「雨乞い」 ～曾祢・西馬場・新庄などの例から～ ・お茶席 入場者約180人 ・将棋大会 参加者50人 <p>②文化推進事業の実施</p> <p>(1) オークストラアンサンブル金沢創立35周年 県内縦断コンサート中能登町公演</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施日 令和5年6月14日(水) 会場 中能登町立図書館 入場者 120人 <p>(2) ピアノにあえる日</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施日 令和5年8月27日(日) 会場 ラピア鹿島 アイリスホール 入場者 100人 <p>(3) 自衛隊コンサート</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施日 令和5年9月9日(土) 会場 ラピア鹿島 アイリスホール 入場者 400人 <p>(4) 宝くじ文化公演 ガチャピン・ムックのサーカスエコロジカル</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施日 令和5年9月23日(土) 会場 ラピア鹿島 アイリスホール 入場者 288人 <p>(5) 福祉のつどい文化講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施日 令和5年10月1日(日) 会場 ラピア鹿島 アイリスホール 入場者 160人 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化まつり実行委員会が主となり、作品展示・芸能発表が行われた。 ・参加団体はそれぞれが準備から片付けに至るまで協力し合い運営されており、また、多くの町民の方が鑑賞に訪れてくださるため、参加者の励みとなっている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後継者育成及び新規加入促進が課題と考える。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に高齢化が進み、脱退する団体も増えていることから、後継者の育成及び新規加入促進策を検討しなければならない。また、各団体の事業内容の見直しも行うように指導していきたい。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が収束化に向かう中で、予定していた7事業をすべて開催することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来 of 事業の継続と内容の工夫が必要。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民をはじめとする多くの人々が集い、事業を通じ文化芸術活動の活性化が図れるよう、場の提供を継続していきたい。

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>(6)いしかわ百万石文化祭 2023 応援事業 特別企画「現代美術展」・文化まつり芸能発表「ONIGIRI ライブ」 実施日 令和5年11月3日(金)～5日(日) 会場 ラピア鹿島ミュージズホール・アイリスホール 入場者 約250人</p> <p>(7)なかのとクリスマスコンサート 実施日 令和5年12月24日(日) 会場 ラピア鹿島 アイリスホール 入場者 約80人</p>	
<p>○生涯学習の拠点として施設の充実を図る</p> <p>①ラピア鹿島</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の改修状況 <ul style="list-style-type: none"> (1) LED 外灯設置工事 <ul style="list-style-type: none"> 工事費 874,500円 内容 敷地内(図書館側)外灯4基をLED使用に取替。 (2) 屋上笠木撤去工事 <ul style="list-style-type: none"> 工事費 3,300,000円 内容 屋上に設置してあった笠木が経年劣化による落下の恐れがあった為、人的被害や物損被害の防止の為の撤去工事。 (3) 非常用照明設備改修工事(第3期工事) <ul style="list-style-type: none"> 工事費 14,965,500円 内容 建築基準法に伴いアイリスホール、コンコース等の非常照明をバッテリー内蔵型に取替 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度は、左記の改修・修繕工事を実施し、安定した貸館運営ができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホール運営にあたっては、音響設備や照明設備の機器操作が必要であり、人事異動により不慣れな職員が対応することも考えられる。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備の機器操作の説明会や指導体制を構築し、ホール運営に支障がでないよう努めていく。 ・生涯学習に係る文化芸術活動が衰退しないよう、開催方法の助言やアドバイスを行っていく。 ・休日中の除雪体制や緊急対応について事前準備し、拠点施設の運営体制をとる。 ・経年劣化による施設及び設備不良の早期発見とともに突発修繕に対応する。

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>②ふるさと創修館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の修繕状況 <p>ふるさと創修館エレベーター修繕工事</p> <p>工事費 990,000 円</p> <p>内 容 ふるさと創修館エレベーターは創修館が開館して26年(平成8年)経過し、制御盤機器が不良となったため、新しく機器の修繕工事を行った。</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度は、左記の修繕工事を実施し、長寿命化を図られ、安定した貸館運営ができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化が進んでおり、計画的な施設及び設備の改修が必要。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化が進んでおり、計画的な施設及び設備の改修を進める。また、軽微な修繕は早急に発見し対応する。 ・休日中の除雪体制や凍結対策、緊急対応について事前準備し、運営体制をとる。

5 生涯学習の振興 (2) 生涯学習講座の実践

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○住民のニーズを把握し、学習機会の場を提供する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習講座の実施 <ul style="list-style-type: none"> (1) ボクシングエクササイズ講座 3回 延べ 17 人 (2) フラワーアレンジメント講座 3回 延べ 16 人 (3) 大人の運動講座 3回 延べ 34 人 (4) かんたん水引講座 3回 延べ 11 人 (5) 暮らしを飾ろう！手芸講座 5回 延べ 60 人 (6) Foot 活(フット)体操 3回 延べ 19 人 (7) 掃除のコツ講座 1回 延べ 8 人 (8) 生前整理講座 2回 延べ 11 人 (9) きもの着付け講座 6回 延べ 31 人 (10) かぶらずし講座 2回 延べ 35 人 (11) 蓬莱づくり講座 1回 延べ 14 人 ・女性協議会講座 講師謝金一部助成 6,000 円 (各支部 1 回/年度のみ助成) 実績 6 支部 ※支部数 13 地区 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 11 講座延べ 32 回開催。延べ 256 人が参加。 「まちの先生」の講座を 7 講座実施。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講座受講者の自発的活動への発展。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 壮年層が継続して取り組みが実施できる講座を新規に設ける。
<p>○ふるさと学習の充実を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中能登町の生涯学習の推進を目的とし、町で活躍する文化活動の先生（講師）を活用し、地域及び学校の学習活動の支援を行う。 まちの先生（メニュー13 項目） <ul style="list-style-type: none"> ○食べ物作り ○手工芸 ○スポーツレクリエーション ○自然・科学・環境 ○日本文化 ○芸術 ○教育・福祉・生き方 ○片付け・清掃 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各講師が依頼を受け、専門分野の学習を提供している。放課後子ども教室での依頼が 7 回あった。 ・ 生涯学習講座は 7 講座 20 回実施した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まちの先生の周知。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ふるさと学習の提供の周知・利用促進について、講師と協議を行いながら各イベントでの講座開催等、周知につなげていきたい。

事業の名称及び実施概要	点検及び評価								
<p>○生涯学習人口の拡大を図る</p> <p>講演、体験・紹介コーナーを行い、町民への生涯学習活動について周知を行うと同時に、お互いが学びあえる学習機会の提供を図る。社会教育委員が主体となり、企画及び運営する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生涯学習のつどい」の開催 <ul style="list-style-type: none"> (1)日 時 令和5年10月1日(日) 13:30～16:00 (2)場 所 生涯学習センター「ラピア鹿島」 (3)テーマ 「つなごう心 明日へ」 (4)内容 <ul style="list-style-type: none"> ○記念講演 <ul style="list-style-type: none"> 講師 川村 妙慶 氏(僧侶・番組パーソナリティ) 演題 「生きがいの持てる人生」 ～不安な世の中を生き抜く智慧～ ○体験講座 <ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング体験 ・勾玉づくり ・麴調味料作り ○展示 <ul style="list-style-type: none"> ・なかのと巾ボール ○おはなし会 <p>※福祉のつどい(主催 中能登町社会福祉協議会)との合同開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品展示(町内福祉施設・地域つながりサロン) ・介護や福祉に関する相談コーナー ・福祉施設が製作する商品の販売 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年に引き続き、社会福祉協議会の「福祉のつどい」との合同開催により、イベントが集約でき、双方からの集客を行うことができた。 ・来場者数 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>記念講演</td> <td style="text-align: right;">166人</td> </tr> <tr> <td>プログラミング</td> <td style="text-align: right;">11人</td> </tr> <tr> <td>勾玉づくり</td> <td style="text-align: right;">12人</td> </tr> <tr> <td>おはなし会</td> <td style="text-align: right;">9人</td> </tr> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民のニーズに合った講演、講座の選定を行う必要がある。 ・福祉のつどいとの合同開催となったが、それぞれのイベントの主旨や実施内容など方向性の違いがあり、今後合同開催するかを踏まえ検討する。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業がマンネリ化しないように、基調講演等の企画・運営を図る。 ・今後も生涯学習に役立つ内容の基調講演、体験・紹介コーナーによる生涯学習の周知に取り組む。 	記念講演	166人	プログラミング	11人	勾玉づくり	12人	おはなし会	9人
記念講演	166人								
プログラミング	11人								
勾玉づくり	12人								
おはなし会	9人								

5 生涯学習の振興 (3) 公民館活動の充実

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○各自治公民館の活動を基盤とし、地域の活性化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治公民館活動への助成 (55 地区) <p>【活動内容】</p> <p>各種レクリエーション大会、環境美化、その他行事等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域自治公民館振興事業 (2 事業) <ul style="list-style-type: none"> ① 4 地区合同 (新庄・廿九日・在江・川田) グラウンドゴルフ大会 ② 2 地区合同 (黒氏・黒氏新町) 納涼祭 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区住民が連携し自主的に事業を企画、実施することにより、自治意識の高揚を図り、住民相互の連帯感を醸成し、地域の活性化の促進を図ることができた。 ・自治公民館が複数で事業を展開することにより、各自治公民館の生涯学習全般にわたる活発な活動を促進し、当該地域が本来持つ力を再生や地域の活性化と連携強化を図ることができた。2 事業が実施したが、それぞれに事業目的どおり成果がでた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治公民館活動の充実を図る。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治公民館活動の継続的推進を図るとともに、補助金の有効活用への助言等、各自治公民館の自主的活動の更なる充実を図る。
<p>○活動を通じさらなる連帯感を養い、地域のリーダー育成を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域文化活性化事業の活用 文化団体の新たな活動に対し、いしかわ県民文化振興基金及び町補助金により経済的支援を行うことにより、文化活動の活性化につなげる。 <ul style="list-style-type: none"> ①春木獅子舞保存会 春木獅子舞後継者育成事業 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土芸能である春木獅子舞を青年団が中心なり、笛・太鼓・獅子舞踊りを子どもたちに指導した。指導内容を記録し、今後の郷土芸能の春木獅子舞を保存伝承することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規団体を募集 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いしかわ県民文化振興基金の活用を促し、新規活動の支援を行う。 継続事業については適正な事業計画の精査・助言を行う。

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○関係団体との連携を密にし、各団体の活性化を図る 各種団体への助成</p> <p>①中能登町文化協会 会員相互の学術技芸の習得意欲の向上と、地域社会の文化向上に寄与する。</p> <p>(1)町補助金額 2,750,000 円 返還額 0 円 事業費 3,708,964 円</p> <p>(2)事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化だより発刊 ・文化まつりの開催 ・県庁ロビーコンサートへの参加 <p>実施日 令和5年6月11日(日) 参加団体 中能登桜の会・千佐穂会 泉流日本舞踊鹿島教室</p> <p>②中能登町女性協議会 町内女性の親睦を図り、協力して女性活動を推進することを目的とする。</p> <p>(1)町補助金 1,700,000 円 返還額 0 円 事業費 2,389,457 円</p> <p>(2)事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力づくりレクリエーション ・視察研修 ・議会傍聴 ・会報発行 ・交通安全マスコット配付 ・県婦人意見発表大会 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化協会活動では、それぞれの団体が、発表会やボランティア活動等に積極的に参加し、地域文化の向上が図られた。また、活動発表として文化まつりの会場で発表会・展示会を開催した。団体においては日頃の成果を発表し、町民は楽しい時を過ごせた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化団体会員の高齢化による、活動縮小又は休止。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化協会の各種団体への加入状況が減少傾向にあるため、広報誌等を活用し入会案内を行い、加入促進を図っていく。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事等を通して町行政に対する課題や疑問を問いかけすることができ、さらに会員同士の絆を深めることができた。 ・支部にて講座を開催した際に、講師謝金の一部を町から助成する制度があり、支部活動が実施できた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町女性協議会に参加する支部が減少している。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、町女性協議会の継続については、個人会員も視野に入れて検討を重ねていく。 ・女性の活躍は町活性化において欠かせないため、今後も支援を行っていく。

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>③中能登町実年会 町実年層の親睦と融和を図りつつ、その教養を高めより良い町づくりの推進に寄与する。</p> <p>(1)町補助金 300,000円 返還額 0円 事業費 494,873円</p> <p>(2)事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内美化活動の実施 ・「中能登町実年会だより」の発行 ・パークゴルフ大会 ・町長と語る会 ・ボウリング大会 ・県政出前講座 ・バス視察研修 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染症対策を徹底したうえで参加者を集め、町実年層の親睦と融和を図ることができた。 ・実年会だよりの発行により、実年会活動の周知ができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実年会として町のために、どのような活動が必要なのか事業内容の見直しが必要である。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度町実年会は、鳥屋地区から3団体、鹿西地区から1団体の計4団体で活動を継続する。
<p>④中能登町青壮年協議会 町内青壮年の親睦、交流を図り、青壮年層の活性化に資することを目的とする。</p> <p>(1)町補助金 300,000円 返還額 290,000円 事業費 97,879円</p> <p>(2)事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民地区対抗ソフトボール大会（6/12） ・婚活事業（中止） ・なかのとトレジャートレイルランボランティア（11/7） ・やじきた祭り（中止） ・道の駅 彩効庵おにぎりウィークデー ・鹿西高校おにぎり販売（11/18, 11/19 後援） ・町長と語る会（2/25） 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で中止とした事業もあるが、基本的な対策を講じながら実施することができた事業もある。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区会員の減少と事業の見直し。地区会員が少ない現状を見ると、今は地区とふれ合い、コミュニケーションを図っていく段階であると考え。それを踏まえた事業の見直しが必要である。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員の募集については、既存の事業内容を見直し、地区とのコミュニケーションを図れるような事業（地区対抗スポーツ大会など）を中心に実施するなど、検討を重ねていく。

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>⑤中能登町子ども会連絡協議会</p> <p>(1)町補助金 800,000 円 返還額 393,000 円 事業費 407,000 円</p> <p>(2)事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国子ども会安全会への加入 ・各地区感染症対策費の助成 ・絵画コンクールの開催 ・秋・冬各種球技大会（中止） （グラウンドゴルフ大会、ボウリング大会） 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、中止となった事業もあったが、子ども会の堅実な活動を支援し、子どもの健全育成に資することができた。 ・子ども会という組織への愛着と連帯と子ども同士が相互に納得する規律の精神を涵養することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口座管理や文書作成などの会の自立運営が弱いことや各地区の子ども会の主任育成委員の方で町子ども会への協力する意欲が弱い方がいると全体としての活動ができなくなる。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主性の尊重や道徳心の尊重、体力の向上など目的をもって活動していけるよう働きかけたい。

5 生涯学習の振興 (4) 青少年の健全育成

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○家庭や学校、地域との連携を密にし、犯罪のない地域社会を創る</p> <p>・巡回補導の実施 夏休み期間の巡回補導の実施</p> <p>実施日 8月 1、3、8、10、17、22、24、29日 計8回</p> <p>時 間 17:00～18:00</p> <p>参加者 66名</p> <p>町駐在所、各学校代表、県警委嘱少年補導員、七尾鹿島地区高等学校PTA 校外補導連絡協議会、青少年育成推進指導員、町教育委員会の協力のもと実施した。</p>	<p>【成果】</p> <p>・学校・地域、関係機関との連携を深めながら、巡回補導を実施し子どもたちの健全な育成を図ることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>・県警に委嘱を受けた補導員と違い、一定の権限も持たない育成員は、警察官が同伴できない日は積極的な活動ができない。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>・近年、パソコンやタブレット、携帯電話の普及に伴い、屋内に引きこもることが多い中、ネット巡視も取り入れていくなど、少しでも非行防止に繋がるよう努めていきたい。</p>
<p>○青少年の地域での社会参加を促す</p> <p>①青少年育成推進委員の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町立小中学校への協力 ・町巡回補導への協力 	<p>【成果】</p> <p>・県主催の研修会が開催され、相互の意見交換ができた。また、例年通り関係団体等への協力を行った。</p> <p>【課題】</p> <p>・雪の時期など、天候や気温が厳しい時は、活動が難しい。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>・今後も研修会やブロック会議に積極的に参加し、相互の意見・情報交換などを行い、他市町との連携を強化していきたい。</p>

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>②放課後子ども総合プランの推進</p> <p>放課後子ども教室の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とりや放課後子ども教室 ・とりや児童館放課後子ども教室 ・かしま放課後子ども教室 ・かしま児童館放課後子ども教室 ・ろくせい放課後子ども教室 ・ろくせい児童館放課後子ども教室 <p>全30回実施、延べ923名参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な内容 新聞紙エコバック作り 防災教室 レクリエーション おにぎりダンス 英語のおはし会 おはなし会 トキめき工作 切り絵教室 リズムエアロビクス <p>③二十歳のつどいの実施</p> <p>当初実施日 令和6年1月7日(日) 10:00～ →延期 令和6年5月5日(日) 10:00～ 場 所 ラピア鹿島「アイリスホール」</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びや、色々な体験を通し、子どもたちの自主性の尊重、体力の向上、道徳心の尊重など目的をもって取り組むことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動内容についてはマンネリ化がおりつつ、今後は新しい企画も視野に入れ、子どもたちの興味を引くような企画を考える。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの意向も聞きながら、楽しい教室になるよう努めていきたい。また、子どもたちの興味を引くような企画を考え、安全・安心な活動ができる放課後の居場所づくりに取り組みたい。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年能登半島地震の影響で、会場のラピア鹿島が被災したため、次年度へ延期しての開催となった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延期決定後の調整や関係者への連絡に時間がかかった。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震等により開催が中止・延期する可能性があるため、対処方法をあらかじめ検討・計画する。

5 生涯学習の振興 (5) 国際交流事業の推進

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○次世代を担う児童生徒の国際的視野を身につけるための国際理解を深める</p> <p>① ジャパンテントへの共催並びに実施 (新型コロナウイルス感染症の影響により、金沢市内のみでの開催のため、当町での実施はなし)</p> <p>② 21世紀石川少年の翼 (対象者なし)</p> <p>③ ジュニアウイングス (新型コロナウイルス感染症の影響により中止)</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中止のため成果なし。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンデミックの影響を強く受ける事業のため、個々の市町の努力ではどうしようもない面がある。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・左記事業等を活用し、国際交流及び多文化共生の推進を図っていく。 ・たくさんの生徒に参加してもらえよう、各学校に掲示周知依頼を行う。 ・町内から参加者を募り、国際的視野を身につけ、相互理解を深めるよう、協力をしていきたい。
<p>○持続可能な日本語教室を実施し、外国人と地域住民の多文化共生を図る</p> <p>①2019年度 文化庁委託事業 「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業地域日本語教育スタートアッププログラムを終了し、令和2年度から本格稼働となり、4年目の教室を開催した。</p> <p>【委託先】 中能登町国際交流の会 【委託料】 1,033,621円 【名称】 中能登町日本語教室 中能登にほんごひろば「茶の間」 ～しゃべらんかいね～</p> <p>【実施場所】 町立図書館コミュニティ広場 【実施時間数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室 18回 計32.0時間 ・コアミーティング 13回 計31.0時間 <p>【具体的な実施内容】 令和元年度から公設民営方式を採用し、中能登町国際交流の会に事業委託し、日本語教室の運営を行っている。年間24回開催を計画し、日本語クラス、多文化共生クラスの2クラスにより開催した。 なお、能登半島地震の影響により1月から3月まで教室開催が出来なかったが、災害時に日本語教室が自主的に自主避難所への訪問や、外国人労働者を雇用する企業への訪問を行い、災害時の外国人支援体制について大きな役割を果たした。</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の教室に参加した外国人学習者は、延べ156人であった。また、運営スタッフとしては、サポーターが延べ160人、ボランティアサポーターが延べ18人の参加であった。 ・町内各企業や商業施設に開催案内チラシを掲示した。また、町広報誌においても毎月号で開催案内を掲載した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度は新型コロナウイルス感染症や5類以降に伴い、参加者数が増加傾向にあったが、地震の影響により教室開催が出来なかった。教室の参加者周知を引き続き図る。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中能登町国際交流の会「多文化共生部会」として継続的な活動を行っていくよう進める。 ・参加者のほとんどが町内及び近隣の市町にある企業からの技能実習生であり、数年で帰国される方々であるため、在住または永住外国人の参加を増やしていきたい。

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>コアメンバーによるコアミーティングを毎月実施し、企画立案や教室運営に係る事項について協議してきた。</p> <p>この教室の開催目的である「外国人住民の生活をサポートする」、「外国人住民と地域の人楽しく豊かに暮らす」を常に意識して行っている。</p> <p>教室では、地域での生活に必要なルールを学べるほか、日本や中能登町の歴史や文化を知ってもらえることができる。また、地域住民と日本語で会話ができるようになることから、情報交換や交流が図られ、地域参画と共助が生まれるようになり、多文化共生の町づくりの推進が図られる。</p>	

5 生涯学習の振興 (6) 図書館の充実

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○町民のニーズに配慮し必要な図書、資料を収集し、町民の読書意欲を喚起する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書は町立図書館で一括購入し、新着資料は各図書室にも配置している。(能登半島地震の影響で令和6年1月以降、図書室は休止中) ・ 利用者の希望の本が町内図書館で蔵書していない場合は、県内図書館や県外図書館からも借り受けることができる相互貸借サービスを行っている。また、利用者からのリクエストも受け付けている。 ・ 季節や旬の話題を取り入れてテーマを決め、展示コーナーを設けることにより、読書意欲を喚起している。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の希望に応じ、リクエスト図書を購入したり、県内外図書館から借り受けたりするなど調整を図って提供した。 ・ 貸出利用冊数(利用人数) 令和5年度 75,428冊(18,963人) 令和4年度 104,251冊(25,537人) 令和3年度 68,015冊(16,700人) <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者数・貸出数が減少しているため、新規利用者を増やす取り組みを行う必要がある。 ・ 情報が古い資料や状態が悪い資料が除籍されずそのまま所蔵されている。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き利用者のニーズを把握し、利用しやすい図書館・図書室を目指し、町民の読書意欲の増進に努めていく。 ・ 廃棄基準に当てはまる図書の廃棄を行い、図書の入替を行うことで魅力的な棚づくりを行う。
<p>○図書館講座等を実施し、利用者の増加を図る</p> <p>① 図書館ボランティア養成講座(1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 【1回目】 令和5年10月26日(木) 「本の修理の仕方」 ・ 【2回目】 能登半島地震の影響で中止 「おはなし会での小道具づくり」 <p>② 公開読書会(1回) 令和5年8月4日(金) 「海に見える理髪店」 荻原 浩/著</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講座を開催することで、ボランティアの技能の向上につながった。 ・ 公開読書会の参加者は11名。テキストと同じ作者の図書も展示し、作品への理解が深まった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者が固定されつつあり、新規参加者が少ない。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア養成講座を生かし、図書館ボランティアの活動範囲を広めていきたい。 ・ 新規の利用者が参加しやすいような内容を考えていきたい。

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>③ ブックスタート事業</p> <p>乳幼児から絵本に慣れ親しんでもらうため、町内に生まれたすべての赤ちゃんを対象に絵本を手渡し、ボランティアと職員が読み聞かせ等を行うブックスタート事業を実施</p> <p>(1) 対象児 7カ月の乳児（令和5年度 76人） (2) 実施日 7カ月児相談時 (3) 会場 保健センター「すくすく」 能登半島地震後は「パルみおや」 (4) 内容 2冊の絵本を贈呈 （20種類の本から2冊を選ぶ） (5) 実績 76組 152冊贈呈</p> <p>④ 図書館講座や行事を実施</p> <p>【一般向け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文学散歩 21人 ・文学講座 17人 ・図書館まつり 約100人 ・ライブラリーシネマ 36人 ・謎解き図書館 19組43人 ・ミニ巡回展（県立図書館共催） <p>【児童向け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み図書館員体験 8人 ・クリスマスおはなし会 12人 ・ぬいぐるみおとまり会 8人 ・おはなし&工作教室（2回） 延べ41人 ・夏休み工作教室 15人 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健センター「すくすく」で母子推進委員と一緒に7カ月の乳児を対象に、絵本の読み聞かせと本のプレゼントを行った。対象者全てに絵本を手渡すことができた。 ・保護者に乳幼児への本の読み方を伝えることで、親子同士のコミュニケーションを図ることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業を継続するため、母子推進委員以外の地域ボランティアにも参加を促す必要がある。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期から図書と慣れ親しむことが大切であることから、今後も引き続き事業を実施し、本の楽しさを知ってもらおう。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般、児童向けの行事を随時開催し、多くの利用者に参加していただいた。 ・県立図書館から提案のあった巡回展をはじめ、新規事業を開催した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事開催で来館者数や貸出数は少し増加したが、再度来館してもらえようような工夫が必要。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的に図書館へ足を運んでもらうように、引き続き定期的に行事を開催する。 ・図書の貸出につなげられるような取り組みを行っていく。

事業の名称及び実施概要	点検及び評価								
<p>⑤おはなし会の実施</p> <p>おはなし会ボランティアによるおはなし会を各図書館・図書室にて定期的実施</p> <p>【中能登町立図書館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ English STORYTIME ～英語で絵本を楽しく読もう！～（第4土曜日） 8回 延べ42人 ・ ボランティアーズ（第2土曜日） 7回 延べ48人 <p>【ふるさと創修館図書室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ピノキオさんのおはなし会（第1土曜日） 5回 延べ19人 <p>【カルチャーセンター飛翔】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアーズ（第2土曜日） 8回 延べ110人 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おはなし会を行うことで児童の絵本への関心、地域の方が実施することで、地域とのふれあいの場に繋がった。 ・ 対象年齢を広報等で標記することで、参加しやすくなりように工夫した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者数が少ない、もしくはいない回もあった。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き広報に力を入れ、周知する際には目安として対象年齢を表記する。 ・ 図書館ボランティアを募集し、おはなし会の回数やバリエーションの増加を目指す。 								
<p>○図書館司書と連携、協力し図書館の活性化を図る</p> <p>①うちどく推進賞を実施</p> <p>「うちどくノート」町内小学校全児童に配布し、うちどくノート提出順に学校で表彰を実施。提出後には新たなノートと交換する。</p> <p>シルバー賞、ゴールド賞は2月に学校で表彰</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「うちどく賞」（1冊目達成者） ※ノート1冊の提出に必要な読書冊数 1～4年生 15冊 5～6年生 8冊 ・ 「シルバー賞」（2冊目達成者） ・ 「ゴールド賞」（3冊目以上達成者） ・ 「図書館長賞」（最多達成者） <div data-bbox="263 1637 734 1989" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">うちどくノート</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和5年度受賞者数 (※カッコ内は前年度) <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>うちどく賞</td> <td>140人(219人)</td> </tr> <tr> <td>シルバー賞</td> <td>27人(49人)</td> </tr> <tr> <td>ゴールド賞</td> <td>24人(82人)</td> </tr> <tr> <td>うちどく賞達成率</td> <td>18%(28%)</td> </tr> </table> ・ 学校図書館に協力を依頼し、3校中2校の小学校でノート交換が可能になった。 ・ 図書館長賞が過去最多の29冊での授賞となった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者の読書量は増加しているが、未参加の児童がまだ多くいる。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校図書館と連携をとり、読書が習慣化するように働きかける。 ・ 家族や身の回りの人同士で本を通してコミュニケーションをとってもらえるような魅力ある事業を引き続き実施する。 	うちどく賞	140人(219人)	シルバー賞	27人(49人)	ゴールド賞	24人(82人)	うちどく賞達成率	18%(28%)
うちどく賞	140人(219人)								
シルバー賞	27人(49人)								
ゴールド賞	24人(82人)								
うちどく賞達成率	18%(28%)								

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>②学校図書館担当者との連絡打合せ会の実施</p> <p>(1) 実施日 第1回 令和5年4月28日(金) 第2回 令和6年3月19日(火)</p> <p>(2) 参加者 学校図書担当教諭、学校図書館司書、 町立図書館職員・司書</p> <p>(3) 内 容 町図書館の小中学生対象事業について 各校の読書指導計画について うちどくノートについて</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各小学校の取り組み及び図書館の取り組みについて相互に情報共有ができた。 司書教諭の要望で、年度末に結果報告を行った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館と町立図書館が協力して行う事業が少ない。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館司書及び学校図書担当教諭との連携を強化し、児童生徒の学校図書館、町立図書館の利用推進を図る。
<p>○図書館を集約し、町民に親しまれる図書館整備を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者の利便性を高める。 <p>蔵書は町立図書館で一括購入し、どこの図書館・図書室でもその図書を借りることができるよう予約を受け付けている。令和5年7月からウェブマイページ機能を追加し、インターネット上でも本の予約や貸出状況を確認できるように設定した。また、町内の図書館・図書室で借りたものは、借りた図書館・図書室でなくても返却できるようにしている。</p> <p>能登半島地震で施設が被災したため、令和6年1月から図書室は休止しているが、本の取寄せやブックポストの利用を行うことで対応している。</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書の予約受付をすることで、利用者が足を運びやすい図書館で貸出しをすることができ、利用者の負担軽減となっている。 利用者にウェブマイページ登録をしてもらうことで、インターネット上での予約や貸出状況を確認してもらえるようになった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ウェブマイページやブックポストなど、サービスを行っているが、あまり利用されていない。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> どのようなサービスを利用できるのか町民の方に周知するために広報を重点的に行う。

6 生涯スポーツの振興 (1) ジュニアスポーツクラブの充実

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○ジュニアスポーツクラブの活動を支援し、子どもたちの心身を育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジュニアスポーツ教室の開催 <p>20 教室を実施し、各教室年間 50 日から 271 日にかけて活動を行った。各教室には育成費や大会派遣費を補助し、その活動を支援している。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 鹿西剣道教室 (2) 鹿島少年剣道教室 (3) 中能登柔道教室 (4) 少林寺拳法 (5) とりやアスリートクラブ (6) 中能登ジュニア体操クラブ (7) 中能登 F C (サッカー) (8) 中能登ジュニアトランポリンクラブ (9) 中能登フェニックス (ミニバス男子) (10) 中能登ミニバスケットボールクラブ (女子) (11) 中能登クラブ (学童野球) (12) 中能登卓球スポーツ少年団 (13) とりやソフトテニスクラブ (14) バドミントクラブかしま (15) バレーボール女子 (16) 極真 中能登カラテ (17) なかのと織姫ソフトボールクラブ (18) ジュニア空手道教室 (19) 武道教室 山口道場 (20) 鹿島 A C 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度はコロナによる規制も緩和されてきて、各教室でコロナ対策を行いながら大会等にも積極的に参加し、活動を行った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化が加速する中、また、部活動の地域移行が進められていく中、ジュニアスポーツの基本方針をどのように対応していくべきか、いくつかの困難な課題が予想される。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化の影響もあり児童数が減少傾向にあるが、4月に募集チラシを配布するなど、今後も多くの児童に加入を勧めていきたい。 ・地域社会において、スポーツ活動を中心に組織的な活動を図っていきたい。
<p>○ジュニアスポーツクラブ指導者育成派遣を行い、指導者の資質向上を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者としての資質向上のため、資格取得や各種講習会への参加について派遣補助を行う。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ指導者講習会への参加など、指導者が資格を取ることで、指導力の向上及び競技会への出場が可能となるので積極的にジュニアスポーツクラブに呼びかけた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資質の高い指導者の育成を図るとともに加盟団体と連携、協力して、自立したスポーツ指導者育成事業を推進していく必要がある。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人でも多くの指導者養成のため、講習会等への受講を幅広く呼び掛けていく ・指導方法のあり方が騒がれている 今日であるが、少しでも資質向上に繋がる事業を推進していきたい。

6 生涯スポーツの振興 (2) スポーツの振興

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○スポーツ推進委員やスポーツ協会と連携を図り、地域スポーツの推進を図る</p> <p>①中能登町スポーツ協会 25 競技団体に指導及び各種補助を行い、ジュニアから一般世代までの競技力向上を目指している。特に町民大会の開催については大会開催費を補助した。</p> <p>【町民大会実施 8 種目】 第 19 回町民野球大会 第 19 回町民ソフトテニス大会 第 18 回町民ゴルフ大会 第 15 回町民パークゴルフ大会 第 19 回町民グラウンドゴルフ大会 第 19 回町民ソフトボール大会 第 19 回町民卓球大会 第 19 回町民バドミントンダブルス大会</p> <p>②石川県民スポーツ大会 各競技団体及び出場種目選手に手厚い補助をした。(夏季大会について熱中症予防のため一部中止、冬季大会 1 団体参加)</p> <p>③中能登町スポレク祭 6 種目の大会や体験会を実施した。</p> <p>【スポレク祭を実施した 6 種目】 ・テニス・ソフトテニス・バウンドテニス ・ソフトボール・グラウンドゴルフ・なかのと巾ボール</p> <p>④中能登町スポーツ推進委員会 15 名で組織され、各小学校の P T C A 活動やスポーツ活動、町スポレク祭 (ニュースポーツ体験会) の企画運営、北陸地区・県の研修会に参加した。</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 町スポーツ協会からの補助は町民大会に 8 競技団体及び、夏季・冬季県民スポーツ大会に参加した競技団体に行い、その競技の活性化が図られた。 町スポレク祭は、6 種目で大会及び体験会を実施し、幅広い世代間との交流が図られた。 町スポーツ推進委員の小学校の P T C A 活動では、3 校でドッジビーやなかのと巾ボールのニュースポーツ普及に尽力した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 町スポーツ推進委員は、子どもたちがスポーツ活動に親しみを持って取り組むことができるよう、各種スポーツ教室等の企画・運営を行い、また、町民と行政とのコーディネーター (連絡調整役) として活躍していくことも課題である。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 町スポーツ協会においては、一層の競技力の向上を目指し、チャンピオンスポーツとして更なる好成績を目指すべく、選手育成に努めるよう指導していきたい。 町スポーツ推進委員や関係団体、他市町との連携を踏まえ、地域スポーツの推進を図っていきたい。

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○ニュースポーツ等の普及促進に努め、町民の体力づくりの推進を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員が企画運営するなかのと巾ボールをメインに町民ソフトボール、町民グラウンドゴルフなどの各種大会の開催 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポレク祭6種目で開催することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの人々がスポーツの楽しさや感動を分かち互いに支え合う「新たなスポーツ文化」の確立を目指していくことが課題であると考える。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員には、今後も多くの方にニュースポーツの紹介や体験会を開催するよう指導していきたい。
<p>○各種大会を支援し、競技スポーツの活性化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町スポーツ協会の各競技では町民大会を開催した。また、開催に伴い、大会開催費を補助し運営に協力した。(8競技団体) <p>【町民大会実施8種目】(再掲)</p> <ul style="list-style-type: none"> 第19回町民野球大会 第19回町民ソフトテニス大会 第18回町民ゴルフ大会 第15回町民パークゴルフ大会 第19回町民グラウンドゴルフ大会 第19回町民ソフトボール大会 第19回町民卓球大会 第19回町民バドミントンダブルス大会 <ul style="list-style-type: none"> ・全国高校総体や全国大会出場競技に激励費交付や大会参加のための交通費や宿泊費等の補助を行った。(団体：延べ6組、個人：延べ35人) 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民大会は8競技団体に補助し、その競技の活性化が図られた。 ・各競技の指導強化により、ジュニアにおいては、3競技を全国大会に選手派遣し、高校生及び一般競技においても延べ35人の全国大会出場選手を輩出した。 ・高校総体に出場する選手の懸垂幕を掲揚して健闘を讃えた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化に伴う、競技人口の確保や大会運営の継続が課題となる。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国大会等の出場には交通費、宿泊費、栄養費など多額の費用が必要となるため、引き続き助成していく。

6 生涯スポーツの振興 (3) スポーツ施設の整備・充実

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○地域のスポーツ環境整備の充実を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツセンターろくせいの水銀灯の取り換えや野球場の電光掲示板の修繕、またその掲示板を動作するための付帯設備の修繕を行った。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各スポーツ施設の適正な管理運営ができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化の施設も多くあり、改修または廃止する施設を明確化する必要がある。 ・特に、照明に水銀灯を使用している施設については、LED化へとシフトしていく必要がある。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民のスポーツ活動のための最も身近な施設である地域の体育館、運動場等のスポーツ施設の整備・修繕を計画的に実施する。
<p>○生涯スポーツ・競技スポーツ・学校体育との連携を促進する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員の協力を得て小学校へ出向きPTCA活動を実施した。また、学校との連携もニュースポーツの紹介をしていながら活動した。(3校) ・2023 スポーツレクリエーション祭を開催し、軽スポーツの紹介や体験会を実施した。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症も落ち着いたため、活動が少しずつ増えており小学校3校で実施することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化、コロナ禍などの影響により、外遊びの機会が減少し、体力が低下している乳幼児・児童から、高齢化社会における生きがいを求める高齢者まで、幅広い年代層を対象に連携を広めていくのが課題と考える。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツに加えて、体力に過剰な負荷をかけることなく気軽に行える、さまざまなニュースポーツも考案していきたい。

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○施設の統廃合を含む効率的な管理運営を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状では、配置計画を含め統廃合について検討する必要がある。また、老朽化の施設も多くあり、改修または廃止する施設を明確化する必要があり、適正な管理運営を図っていく。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率的な管理運営を図るとともに、安全で持続的な体育施設等のサービスを維持することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民の健康を増進する観点から、適正な受益者負担のもとに機能を維持しつつ、他施設との統廃合等、民間活力の導入等が課題と考える。 ・特に体育館施設の鹿島体育センター以外は照明に水銀灯が使われており、改修・廃止の明確化と共にLED化していく必要がある。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率的かつ効果的な管理運営やサービスの拡充、更には費用抑制及び安全性の確保を図っていきたい。 ・個別整備計画に基づき、久江体育センター、スポーツセンターろくせい内弓道場、金丸体育館、鹿西武道館は統廃合を含め引き続き検討していく。

6 生涯スポーツの振興 (4) 指導者の養成と選手の育成

事業の名称及び実施概要	点検及び評価
<p>○町スポーツ協会と連携し、指導者の指導力向上 及び、選手の育成に努める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ指導者講習会 令和6年能登半島地震のため未実施。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年能登半島地震のため未実施。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の地域移行に向けて、指導意欲のある地域の方に対しても、教育的観点からの指導や、緊急時の対応など、幅広い視点からの指導が求められる。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の地域移行を踏まえ、指導者に積極的に講習会等の参加を呼びかけるとともに、更なる選手の育成に努めていきたい。
<p>○全国大会等に出場する選手の支援を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジュニア(小中学生) (延べ38人出場) ・高校性 (延べ18人出場) ・大学生 (延べ0人出場) ・一般 (延べ13人出場) <p style="text-align: right;">計69名</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他市町に比べ優遇された補助金制度により、選手の負担を軽減できた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的に全国大会等に出場させることができるかが課題となる。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国大会等出場には交通費、宿泊費など多額の費用が必要なため、町からの補助金は引き続き継続する。

※注釈

- ※1 **OJT=On the Job Training**
職場での実践を通じて業務知識を身につける育成手法のこと。
- ※2 **ICT=Information and Communication Technology**
(インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー) の略称
日本では既に一般的となったIT (情報技術) の概念をさらに一歩進め、ITに通信コミュニケーションの重要性を加味した言葉。国際的にはICTという呼称の方が一般的。
- ※3 **GIGAスクール構想**
2019年に開始された、全国の児童・生徒1人に1台のコンピューターと高速ネットワークを整備する文部科学省の取り組み。
- ※4 **ALT=Assistant Language Teacher**
(アシスタント・ランゲージ・ティーチャーの略称)
英語教科において日本人の教員を補佐し、生きた英語を児童生徒学生に伝える英語を母国語とする外国人の教員を指す。
- ※5 **どぶろく**
どぶろくとは、日本の伝統的な酒のうち、米と米麴と水を原料として発酵させただけで漉す工程を経ていない酒です。
中能登町では、平成26年11月28日付けで内閣総理大臣から「どぶろく特区」の認定を受け、町内全域の農家民宿や農家レストランなどを含む農業者による「どぶろく」製造が可能となりました。全国でどぶろくの醸造が認められている神社が約30箇所あり、そのうち3神社(能登國二ノ宮天日陰比咩神社、能登部神社、能登比咩神社)が中能登町にあります。
- ※6 **能登上布**
約2000年前に崇神天皇(すじんてんのう)の皇女が現在の中能登町能登部下に滞在した際、この地に機織りを教えたことが始まりと伝えられ、昭和35年に石川県無形文化財に指定。
「能登上布」は麻独特の通気性の良さや軽さに加え、サラリとした肌触りがあり、細やかな緋(かすり)模様が特徴です。
- ※7 **Be Brave!** アンケート
生徒用タブレットにて生徒自身が生活の振り返りを入力するアンケート。
回答結果により、いじめにつながる事象の有無の早期発見、先生による面談を行い、早期解決を図る手段として用いている。
- ※8 **QUアンケート=Questionnaire Utilities**
学級診断尺度調査
- ※9 **SSW=School Social Worker** (スクール・ソーシャル・ワーカーの略称)
非行、登校拒否などの問題に直面する児童生徒たちを学校と家庭とのパイプ役となって支援する専門家。
- ※10 **Jアラート**
ミサイル発射や津波、地震などの緊急情報を日本政府が発すると、人工衛星や地上回線を通じて全国の市町村の防災行政無線を自動的に起動し、屋外スピーカーや屋内受信機、メールで知らせるシステム。

※11 **P T C A**=Parent (親) Teacher (先生) Community (地域) Association (会) の略称

P T Aに地域住民が加わった「親と教師と地域住民の会」。地域住民が、学校教育に外側からの支援をするだけでなく、地域の子どもたちは地域で育てるという「共育」の気持ちを大切にします。学校・家庭・地域社会の三者が、子どもの教育について緊密に連携した組織がP T C Aです。

※12 **ピアサポート**

同じような立場の人によるサポート

II 教育委員会会議及び教育委員の主な活動

1 教育委員会委員名簿（令和6年3月31日現在）

教育長	林 大智（令和4年4月1日～令和7年3月31日、1期目）
教育長職務代理者	堀内 浩一（平成30年6月30日～令和8年6月29日、2期目）
委員	坂本 真弓（平成27年6月30日～令和9年6月29日、3期目）
委員	駒井 奈美（平成29年6月30日～令和7年6月29日、2期目）
委員	成田 惟（令和4年10月1日～令和6年6月29日、1期目）

2 教育委員会会議の開催状況

期 日	
第1回 (令和5年4月7日)	(報告事項) R5.4.1付中能登町職員人事異動職員紹介 行事予定等について 小中学校の学級編制について 中能登町コミュニティ・スクール実施校の指定について 学校運営協議会委員の任命について 「部活動の地域移行化プロジェクトチーム」検討結果報告 (その他) 石川県教委連定期総会（5月9日開催）について
第2回 (令和5年5月17日)	(報告事項) 行事予定等について 学校評議員（鹿島小・鳥屋小）の推薦について 社会教育委員の委嘱について 学校運営協議会（中能登中、鹿西小）について 中学校修学旅行（9月上旬予定）の実施について (その他) 中能登町教育委員会委員の任期満了について 令和5年度 教委連「研究大会」について 教育委員会視察について
第3回 (令和5年6月9日)	(報告事項) 行事予定等について 町文化財保護審議会委員の委嘱について オーケストラ・アンサンブル金沢設立35周年記念県内縦断コンサート中能登公演 石川県市町教育委員会セミナーについて (協議事項) 令和5年度準要保護児童生徒就学援助需給資格の認定について 町議会6月定例会議（一般質問答弁）について 令和4年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書について
第4回 (令和5年7月18日)	(報告事項) 行事予定等について 県民スポーツ大会について (協議事項)

	令和4年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書について
第5回 (令和5年8月22日)	(報告事項) 行事予定等について 北信越及び全国中学校体育大会の結果について 石川県民スポーツ大会夏季大会の結果について 中能登町PTA連合会の町長・町教育委員会との懇談会について 七尾鹿島教科用図書採択協議会の答申について (協議事項) 中能登町総合教育会議について (その他) 第2回教育委員代表者会の開催について 石川県市町教育委員会連合会研究大会について
第6回 (令和5年9月13日)	(報告事項) 行事予定等について 令和4年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書について (協議事項) 町議会9月定例会議について 中能登町自治公民館活動事業費交付金交付要綱(案)について (その他) 石川県市町教育委員会連合会研究大会について
第7回 (令和5年10月11日)	(報告事項) 行事予定等について 中能登中学校駐車場における安全対策について (協議事項) 中能登町総合教育会議について (その他) 石川県市町教育委員会連合会研究大会について
第8回 (令和5年11月21日)	(議決事項) 行事予定等について 通学路点検の報告について (協議事項) 小中学校卒業式・入学式の日程について
第9回 (令和5年12月12日)	(議決事項) 行事予定等について 令和6年度石川県市町教育委員会連合会等の行事予定について (協議事項) 町議会12月定例会議について
第10回 (令和6年1月23日)	(報告事項) 行事予定等について 令和5年度立志式について 令和6年能登半島地震の被害について
第11回 (令和6年2月20日)	(報告事項) 行事予定等について 生涯学習施設、体育施設の開館状況について

	<p>小中学校卒業式、入学式の出席について 令和5年度1月専決補正予算について (協議事項) 就学援助受給資格の認定について</p>
<p>第12回 (令和6年3月12日)</p>	<p>(報告事項) 行事予定等について 中能登町議会3月定例会議について (協議事項) 2024中能登町学校教育の指針(案)について 令和6年度中能登町立学校「働き方改革」に向けての取組(案)について 中能登町部活動地域移行について (その他) 小中学校異動教職員等辞令伝達式について 小中学校入学式の出席について</p>
<p>第1回(臨時会) (令和6年3月21日)</p>	<p>(報告事項) 教職員人事異動に係る内示について 講師について</p>

3 教育委員の主な活動

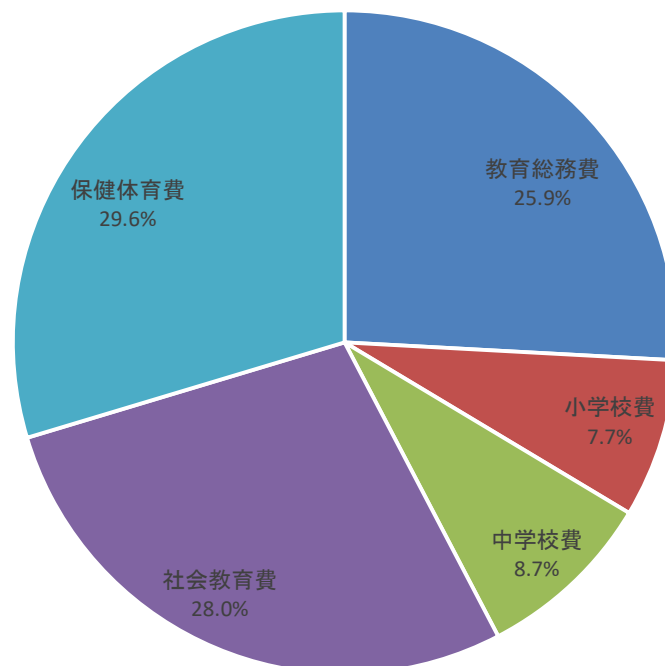
時期	各種会議・関係行事等	開催場所
令和5年4月	異動教職員辞令伝達式 町立小中学校入学式 県立鹿西高等学校入学式 石川縣市町教委連第1回理事会 石川縣市町教育長会議	ラピア鹿島 小学校3校, 中学校1校 鹿西高等学校 金沢市役所 KKR ホテル金沢
5月	第1回教育委員代表者会議 石川県教育委員会連合会定期総会 (欠席) 全国町村教育長会総会・研究大会 中学校計画訪問	金沢市教育プラザ富樫 金沢市教育プラザ富樫 東京都 中能登中学校
6月	石川県町教育長研修会 小学校計画訪問	内灘町 各小学校
7月	石川縣市町教委連第2回理事会	金沢市役所
8月	石川県民スポーツ大会応援 町戦没者慰霊式 (紙面) 町PTA連合会と教育委員会との懇談会 東海北陸地区町村教育長研究協議会	各会場 ラピア鹿島 — 愛知県
9月	第2回教育委員代表者会議	金沢市役所
10月	生涯学習のつどい(福祉のつどい同時開催) 町立小学校運動会 石川縣市町教育委員会連合会研究大会 中学校学校祭 中能登しごと館 町総合教育会議	ラピア鹿島 小学校3校 能美市 中能登中学校 中能登中学校 役場総務庁舎
11月	石川縣市町教委連第3回理事会 石川縣市町教育長会教育長研修会	KKR ホテル金沢 KKR ホテル金沢
12月	なし	—
令和6年1月	(延期) 二十歳のつどい	ラピア鹿島
2月	立志式	中能登中学校
3月	町立小中学校卒業証書授与	小学校3校、中学校1校
通年	関係機関等からの会議出席要請等	—

Ⅲ 令和5年度決算（教育委員会）の概要

1 目的別内訳

(単位：千円)

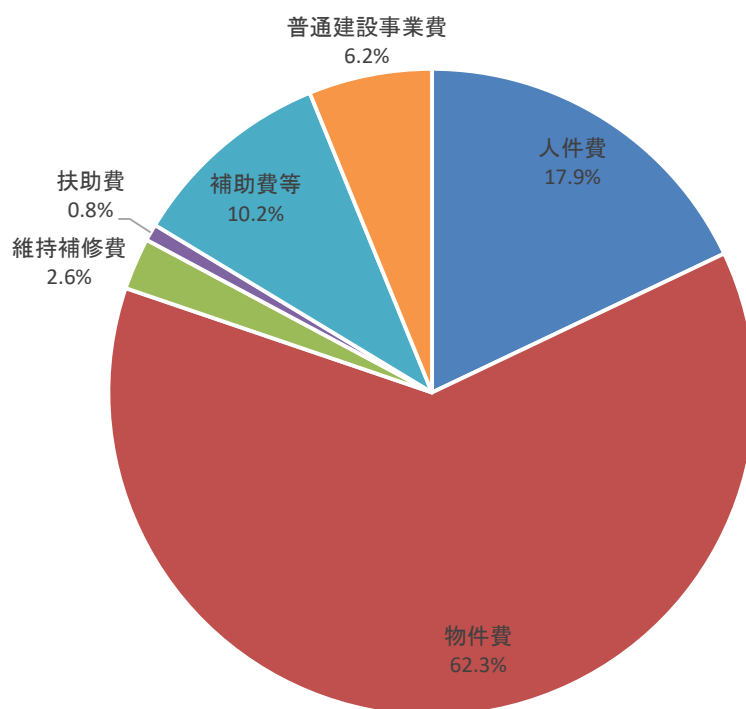
区 分	令和5年度		令和4年度		前年度比 増減額 ③ (①-②)	伸び率 ③/②×100
	決算額 ①	構成比	決算額 ②	構成比		
教 育 総 務 費	274,366	25.86	264,145	26.85	10,221	3.87
小 学 校 費	82,090	7.74	87,339	8.88	▲ 5,249	▲ 6.01
中 学 校 費	92,788	8.75	60,571	6.16	32,217	53.19
社 会 教 育 費	297,216	28.02	250,356	25.45	46,860	18.72
保 健 体 育 費	314,454	29.64	321,492	32.68	▲ 7,038	▲ 2.19
うち体育施設費等	97,383	9.18	105,957	10.77	▲ 8,574	▲ 8.09
うち学校給食費	217,071	20.46	215,535	21.91	1,536	0.71
計	1,060,914	100.00	983,903	100.00	77,011	7.83



2 性質別内訳

(単位：千円)

区 分	令和5年度		令和4年度		前年度比 増減額 ③ (①-②)	伸び率 ③/②×100
	決算額 ①	構成比	決算額 ②	構成比		
人 件 費	190,396	17.95	161,546	16.42	28,850	17.86
物 件 費	660,612	62.27	649,066	65.97	11,546	1.78
維 持 補 修 費	27,522	2.59	19,185	1.95	8,337	43.46
扶 助 費	8,864	0.84	9,126	0.93	▲ 262	▲ 2.87
補 助 費 等	108,069	10.19	99,730	10.14	8,339	8.36
普 通 建 設 事 業 費	65,451	6.17	45,250	4.60	20,201	44.64
うち補助事業費	37,510	3.54	0	0.00	37,510	0.00
うち単独事業費	27,941	2.63	45,250	4.60	▲ 17,309	▲ 38.25
積 立 金	0	0.00	0	0.00	0	#DIV/0!
計	1,060,914	100.00	983,903	100.00	77,011	7.83



「令和5年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書」

に対するコメント

金沢大学学校教育系准教授

加藤 隆弘

総括

令和5年度は、コロナ禍の収束に伴い各種取り組みが復旧する一方、能登半島地震により施設の緊急修繕、事業の休止、文化財の被災確認と応急処置など多くの緊急対応を要した年度となりました。報告書では「成果」「課題」「今後の方向性」が簡潔に整理され、取り組みの全体像がわかりやすく示されています。特に、学力向上・授業改善に向けた校内研修や日常的な取組、GIGA 端末を活用した個別・協働学習、いじめや不登校の早期把握と組織的対応、安全安心な学校づくり、コミュニティ・スクールの展開と部活動の地域移行、食育と欠食率低下などが前進しています。また、学校施設や文化財の整備・被災状況の把握と応急対応、さらには生涯学習・スポーツに関わる取り組みの回復も確認されました。今後も地域特性を生かし、持続可能で豊かな学びの場の実現が進むことを期待します。

1 学校教育

(1) 確かな学力を育む教育の推進

保小中の計画的連携、授業研究会への参加、研究授業、学力調査分析を活用した授業改善など、学習の質向上に向けた取組が定着しています。中学校では「シュクマネ」による主体的学習、若手教員のOJTの充実も進んでいます。英語学習ではALTの全校配置、英検について中学校では358名が受験し259名が合格、小学校では英検 Jr. を活用した取組が実施されました。台湾姉妹校とのオンライン交流も行われ、取り組みの広がりが確認できます。

(2) ふるさと学習の推進

副読本「私たちの中能登町資料編」を活用した学習、雨の宮古墳など地域資源・史跡の見学、稲作・保全活動、ポスター掲示、ふるさと検定など、郷土理解を深める取組が行われました。今後は資料編の更新に向け、最新の調査結果の反映、図表・映像の更新、デジタル教材との連携、震災後の防災知見の追加などが期待されます。

(3) 豊かな人間性や社会性を育む教育活動

児童会・生徒会でのリモート活用により、相手を意識した伝え方を工夫する姿が見られました。今後は対面の良さも生かし、両者の特性を生かした活動が期待されます。縦割り活動で

は、児童生徒の実情を踏まえ、多様な関わりの創出や役割分担、リーダーシップ形成など大切な学習機会として活用されることを期待します。

(4) スポーツの振興

部活動指導員配置、放課後スポーツ教室、各種大会派遣支援により、競技力向上と参加機会が確保されました。部活動の地域移行に向け、安全確保や指導力向上を目的とした研修体制づくりが望まれます。

(5) 安全安心な学校づくり

交通安全教室、見守り活動、避難訓練、防災マップ、通学路点検などが継続されています。一方、安全パトロール隊の高齢化が課題であり、関係機関・地域・保護者と連携した持続可能な体制検討が求められます。

(6) 特別支援教育の充実

支援員（計 18 名）配置、定期研修、通級指導教室の運用など、組織的支援体制が整っています。今後も専門機関・研究者との連携により、支援の充実が期待されます。

(7) 教育委員会と学校・関係機関の連携

学校訪問による学校経営・若手育成・授業研究の把握、指導主事による ICT・英語・特別支援の推進など、連携体制が構築されています。今後は複数回の訪問や気軽な情報共有機会の設定等について、試行してみてください。

(8) 学校・家庭・地域の連携強化

コミュニティ・スクール（鹿西小、中能登中）の設置、部活動地域移行との接続、食育（朝食欠食率 3.3%）、広報発信、読み聞かせ等の連携が進められています。地域とともに学びの場としての学校づくりが進むことを期待します。

(9) 中能登らしい学校教育

区域外就学の弾力運用、キャリア教育「中能登しごと館」（30 講座）、小中高連携、文化芸術鑑賞、環境教育（学校版環境 ISO、水質調査、愛鳥モデル校）など、地域資源を生かした学びが展開されています。

2 学校施設・設備の整備

能登半島地震による被害への迅速な緊急修繕、アリーナ等の照明 LED 化など、環境整備と省エネ化が進んでいます。

3 学校給食

第 2 子以降給食費無償化（641 人）、公会計化による負担軽減、地場産物活用など、家計支援・業務改善・食育への寄与がみられました。

4 文化財

文化財保護事業では、建造物保存活用計画、発掘資料整理、試掘調査、古墳測量、保存修理調査などが進展しました。文化財管理運営事業では、企画展（2,149 人来場）、体験講座、出前講座が実施され、地震後の被災確認と応急対応も適切に行われています。

5 生涯学習

文化まつり（36 団体・1,141 点・約 1,500 人）、文化事業、施設改修、生涯学習講座（32 回・256 人）、公民館活動、巡回補導、放課後子ども教室、日本語教室（18 回・延べ 156 人）など、活動が広く展開されています。

6 生涯スポーツ

ジュニアスポーツ教室（20 教室）、町民大会、スポレク祭、派遣支援（団体 6、個人 35）、施設整備（LED 化）など、スポーツ振興が図られました。地域移行に向けた指導者養成や体制整備が課題です。

以上、本報告書を踏まえ、令和 6 年度においても、学校・家庭・地域が一体となり、子どもたち一人ひとりの学びと成長が豊かに保障されることを期待します。